

下関市潮待貝塚出土の動物遺存体

沖田 絵麻

はじめに

潮待貝塚は下関市富任町に所在する。安岡海岸から約500 m内陸の標高5 m前後の低段丘とこれを覆う砂堆上に立地する。下関市域では数少ない貝塚遺跡のひとつであり、縄文時代中期～後期の豊富な動物質遺物が出土したことから、当該時期における響灘沿岸の人々の動物資源利用を知る上で重要な遺跡である。

潮待貝塚は1950（昭和25）年に吉村次郎氏によって発見され、その年に山口大学・山口県教育委員会・下関市教育委員会による第1次発掘調査がおこなわれた。1961（昭和36）年には、山口県教育委員会・下関市教育委員会による第2次発掘調査がおこなわれた。これらの調査の概要は小川（1955）、小野（1961）、吉村（1969）に報告されている。また、近年では伊藤（2000）・澤下（2000・2003）・川島（2015・2016）などにも詳しくまとめられており、これらを基に簡単に記述する。

発掘調査では、第1次調査A地点で厚さ30～66 cmの貝層が、B地点で溝状遺構と東西幅7m×南北幅4mの貝塚が確認された。二か所の貝塚の距離は40 mほどである。貝塚は縄文時代中期の遺物をごく少量含む海成砂層の上に築かれており、その海成砂層は縄文時代後期前半の海進期に堆積した貝殻粒を多く混入する砂層とされる（吉村1965、小野1975）。

出土遺物は山口大学埋蔵文化財資料館・山口県立山口博物館・下関市教育委員会に保管されている。縄文土器については、中期前葉から晩期後葉に至る土器群が出土し、後期後葉～晩期中葉の土器はみられず、中期の土器は後期の土器より少ない（澤下2000）。石器類には石斧・石鏃・石錘・スクレイパー類・砥石・敲石・石皿などが、貝製品には貝輪（タマキガイ科）がある（澤下2003、川島2016）。

動物遺存体は日野巖・河本卓介両氏が調査し、「哺乳類にイノシシ・シカ・イヌ（中略）、タイとアカエイなどの魚類（中略）、節足動物にはアカフジツボとウニ（中略）貝類には、アサリ・ハマグリ・チョウセンハマグリ・オキシジミ・バイなどが多く、このほかアワビ・サザエ・カキ・テングニシ・シオフキ・ヤマトシジミ・スガイ・ミスジカワニナ・フトヘナタリ・ツメタガイ・レイシなど」（小野1961）、加えて「小禽類」（小川1955）が報告されているが、数量データは表示されていない。

そこで、動物遺存体の数量データを提示し、潮待貝塚を残した人々が「何を・どれだけ」利用していたのかを明らかにすることを目的として、山口大学埋蔵文化財資料館に保管されている貝殻や動物骨などの動物遺存体の再確認・同定をおこなった。

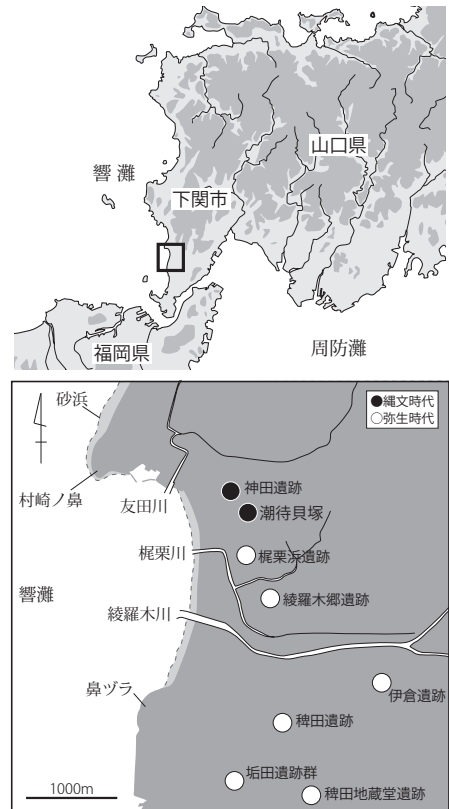


図1 潮待貝塚の位置と周辺の遺跡

表1 出土した小型～中型貝類の種類と棲息環境

分類名	沿岸水		内湾水			汽水	淡水	棲息環境、備考
	外海岩礁底群集	沿岸砂～砂泥底群集	内湾岩礁底群集	内湾砂～泥底域群集	干潟群集	感潮域群集	河川湖沼域群集	
腹足綱	Class Gastropoda							
カサガイ目	Order Patellogastropoda							
ツタノハガイ科	Family Nacellidae							
マツバガイ		○						潮間帯岩礁
古腹足目	Order Vetigastropoda							
ニシキウス科	Family Trochoidea							
イシダタミ		○		○				潮間帯岩礁
サザエ科	Family Turbinidae							
サザエ		○		○				潮間帯下部～水深20m
スガイ		○		○				潮間帯岩礁
パティラ科	Family Tegulidae							
クボガイ		○		○				潮間帯～水深20mの岩礁
ヘソアキクボガイ		○		○				潮間帯～水深20mの岩礁
コシダカガンガラ		○		○				潮間帯～水深20mの岩礁
オオコシダカガンガラ		○		○				潮間帯～水深20mの岩礁
ヒメクボガイ		○		○				潮間帯～水深20mの岩礁
アマオブネガイ目	Order Neritimorpha							
アマオブネガイ科	Family Neritidae							
アマガイ				○				やや内湾的な岩礁、潮間帯上部
Clithon属						△	△	カノコガイ、イシマキガイなどの可能性
新生腹足目	Order Caenogastropoda							
ウミナナ科	Family Batillariidae							
ウミナナ				○	○			内湾の砂泥質干潟、潮間帯の泥底上
ホソウミナナ					○			外海の干潟、岩礁の間の泥底
イボウミナナ					○			内湾の砂泥質干潟の低潮線付近に多い
キバウミナナ科	Family Potamididae							
フトヘナタリ					○	○		内湾奥の潮間帯、河口のヨシ原、マングロープ塩性湿地
ヘナタリ					○	○		内湾奥部の河口汽水域の中・低潮帯表層
ガワアイ					○	○		内湾奥の泥質干潟の泥上
カワナナ科	Family Pleuroceridae							
カワナナ							○	日本全国の淡水
スズメガイ科	Family Hipponicidae							
クスズメ	○	○		○				潮間帯～潮下帯の腹足類の殻上に着生
カツラガイ科	Family Capulidae							
オトヒメスズメ	○	○		○				水深100～200m。ヒヨクガイの殻表、他の貝の死殻上
ムカデガイ科	Superfamily Vemetidae							
オオヘビガイ				○				潮間帯、岩礁域にしばしば群生する
タマガイ科	Family Naticidae							
ツメタガイ				○	○			潮間帯～水深50mの細砂底
テングニシ科	Family Melongenidae							
テングニシ		○						水深10～50mの砂底
バイ科	Family Babyloniidae							
バイ		○						水深約10mの砂底
アッキガイ科	Family Muricidae							
レイシガイ	○			○				潮間帯～潮下帯岩礁
イボニシ	○			○				潮間帯岩礁
汎有肺目	Order Panpulmonata							
オカミミガイ科	Family Ellobiidae							
オカミミガイ					○			内湾奥の河口域に発達したヨシ原湿原内、潮上帯の泥上
二枚貝綱	Class Bivalvia							
フネガイ目	Order Arcoida							
フネガイ科	Family Arcidae							
サルボウ				○				潮下帯上部から水深20mの砂泥底
イガイ目	Order Mytiloidea							
イガイ科の一種		△						イガイの可能性
ウグイスガイ目	Order Pterioidea							
イタボガキ科	Family Ostreidae							
マガキ				○	○	○		汽水性内湾の潮間帯から潮下帯の砂礫底、泥底
イタヤガイ目	Order Pectinoidea							
イタヤガイ科の一種			△		△			ハナイタヤの可能性
マルスダレガイ目	Order Veneroidea							
フタバシラガイ科の一種			△		△			
シジミ科	Family Corbiculidae							
Corbicula属の一種						△	△	ヤマトシジミあるいはマシジミの可能性
マルスダレガイ科	Family Veneridae							
カガミガイ類					△			カガミガイやマルヒナガイの仲間
アサリ					○	○		潮間帯中部から水深10mの砂礫泥底
Macridiscus属の一種		○						コタマガイあるいはオキアサリの可能性
コタマガイ		○						潮間帯下部から水深50mの砂底
ハマグリ				○				内湾・河口域の中・低潮帯から水深5mの砂底・砂泥底
チョウセンハマグリ		○						潮間帯下部から水深20mの外洋に面した砂底
オキシジミ					○			潮間帯下部から水深20mの砂泥底
ニッコウガイ科	Family Tellinidae							
イチヨウシラトリ					○			内湾干潟の中潮帯泥底
バカガイ科	Family Maclidae							
バカガイ		○						潮間帯下部～水深20mの砂泥底
シオフキ				○				潮間帯下部～水深20mの砂泥底
オオノガイ目	Order Myoidea							
オオノガイ科の一種					△	△		オオノガイの可能性

海産貝の和名・学名・棲息環境は奥谷編(2017)、逸見ほか(2012)による。

棲息環境による群集分類は富岡(1999)を参考にした。○は該当する棲息域、△は該当する可能性のある棲息域。

1. 資料と方法

資料は、山口大学埋蔵文化財資料館に保管されている貝殻や動物骨などの動物遺存体である。量はメッシュコンテナに6箱分である。若干の土器片や礫も含まれていた。

遺存体は現場で目視により採取されたと思われる。ビニール袋・箱・新聞紙包みで分けられていたため、その単位で同定・カウントする。また、微細な遺存体の抽出を目的として、袋の底や貝殻のくぼみに溜まっていた砂をかき出し茶漉器で篩う作業もおこなう。

資料を貝殻（小～中型貝・微小貝）・その他に分類し、図鑑および現生標本との比較によって種の

表2 出土した微小貝類の種類と棲息環境

分類名	淡水	陸地	棲息環境、備考
	河川湖沼域 群集	森林域・開地 域群集	
中腹足目 Order Mesogastropoda			
ヤマタニシ科 Family Cyclophoridae			
ミジンヤマタニシ? <i>Nakadaella micron</i> ?		△	
ゴマガイ科 Family Diplommatinidae			
ヒタノマキゴマガイ <i>Palaina (Cylindropalaina) pusilla</i>		○	森林内落葉下
柄眼目 Order Stylommatophora			
キセルガイ科 Family Clausilidae			
スグヒダギセル <i>Paganizaptyx stimpsoni subgibbera</i>		○	森林内(樹木の幹、朽木下)
ナタネガイ科 Family Punctidae			
ナタネガイの仲間 <i>Punctum</i> sp.		△	ハリマナタネ?
コハクガイ科 Family Zonitidae			
ヒメコハクガイの仲間 <i>Hawaiiia</i> sp.		○	
ベッコウマイマイ科 Family Helicarionidae			
ヒメベッコウ <i>Discoconulus sinapidium</i>		○	小石混じりの腐食土で杉や他の落葉の堆積する緩やかな低い山地の斜面
ヒラベッコウ? <i>Bekkoclamys micrograpta</i> ?		△	
ウラジロベッコウ? <i>Urazirochlamys doentzii</i> ?		△	(ウラジロベッコウ: 自然林の溪流沿いの落葉や小石が堆積する緩やかな斜面)
有肺目 Order Pulmonata			
ヒラマキガイ科 Family Planorbidae			
ヒラマキミズマイマイの仲間 <i>Gyraulus</i> sp.	○		(ヒラマキミズマイマイ: 水田、側溝)

陸産貝の和名・学名・棲息環境は湊(1988)、福田ほか(1992)、東(1995)による。

棲息環境による群集分類は富岡(1999)を参考にした。○は該当する棲息域。△は該当する可能性のある棲息域。

表3 出土した貝類以外の動物の種類と棲息環境

分類名	棲息環境・備考
棘皮動物門 Phylum Echinodermata	
ウニ綱 Class Echinoidea	
ウニ類 Echinoidea fam., gen., et sp. indet.	
節足動物門 Phylum Arthropoda	
顎脚綱 Class Maxillopoda	
フジツボ類 Balanidae fam., gen., et sp. indet.	
軟甲綱 Class Malacostraca	
十脚目 Order Decapoda	
カニ類 Decapoda fam., gen., et sp. indet.	
脊索動物門 Phylum Chordata	
硬骨魚綱 Class Osteichthyes	
ニシン目 Order Clupeiformes	
ニシン科 Family Clupeidae	
ウルメイワシ <i>Etrumeus teres</i>	主に沿岸に棲息
マイワシ <i>Sardinops melanostictus</i>	回遊魚。大群を成し、初夏にかけて北方に移動し水温の低下に伴って南下する。冬から春にかけて日本各地の沿岸で産卵
ダツ目 Order Belontiiformes	
トビウオ科 Family Exocoetidae gen., et sp. indet.	
スズキ目 Order Perciformes	
スズキ科 Family Moronidae	
スズキ属 <i>Lateolabrax</i> sp.	スズキやヒラスズキの可能性。岩礁域や内湾
アジ科 Family Carangidae gen., et sp. indet.	
タイ科 Family Sparidae	
クロダイ属 <i>Acanthopagrus</i> sp.	クロダイやキチヌの可能性。内湾や汽水域
ベラ科 Family Labridae gen., et sp. indet.	
サバ科 Family Scombridae gen., et sp. indet.	サバ類
フグ目 Order Tetraodontiformes	
カワハギ科 Family Monacanthidae gen., et sp. indet.	
哺乳綱 Class Mammalia	
ネコ目 Order Carnivora	
イタチ科 Family Mustelidae	
テン <i>Martes melampus</i>	主に森林
クジラ偶蹄目 Order Cetartiodactyla	
イノシシ科 Family Suidae	
イノシシ <i>Sus Scrofa</i>	森林、里山の二次林、農耕地、平野など
シカ科 Family Cervidae	
ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	森林、草原。
クジラ類 Cetacea fam., gen., et sp. indet.	海洋。中～大型のクジラ類か

魚類・陸獣類の和名・学名・棲息環境は中坊編(2000)、阿部ほか(2005)による。

同定をおこなう。陸生貝類の同定は豊田ホタルの里ミュージアムの増野和幸館長に、一部の海産貝類の同定は萩博物館の堀成夫主任研究員に依頼した。

同定した遺存体は、残存部位によって数をカウントする。腹足綱は完全～略完・殻頂部残存・殻底部残存・破片に分けてカウント、二枚貝綱は左右ごとに完全～略完・殻頂部残存・破片に分けてカウントする。貝類の殻長・殻高はノギスで測る。

2. 同定した動物遺存体

同定した動物の名称を表1～3に、出土数量を表4～6に、同定結果一覧を表7・8に示す。便宜上貝類とそれ以外の動物を分けて表示・記述する。

出土位置を示す数字とアルファベットは、袋や新聞包みにマジック書きされていた内容である。AやBは地点名であるが、どちらもわからないものもある。出土年次・層位は不明である。本来であれば地点・層位ごとに内容を検討すべきであるが、出土地点・層位が不明なものを含むため、ここでは全資料を一括して扱う。

1) 貝類

小型～中型の貝類は腹足綱5目16科、二枚貝綱6目10科を、微小貝は3目7科を同定した(表1・2)。

① 腹足綱

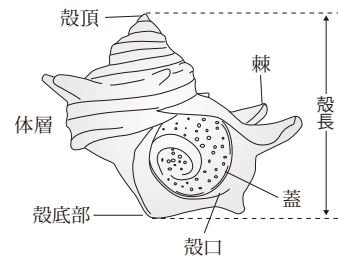
海・汽水・淡水に棲息する多種類が出土した。河川湖沼群集のカワニナ、クボガイ類などの岩礁底群集、ウミニナ類などの干潟群集が多い。

破片数が多いのはスガイ、カワニナ、サザエであるが、最小個体数でみると最多種はカワニナで、スガイがこれに次ぐ。いずれも食用になる貝類で、比較的数量が多い種類は人の手によって採集され食用になったと考えられる。一方、キクスズメ・オトヒメスズメは他の貝殻に着生する性質があり、オオヘビガイも岩だけでなく貝殻に着生することもあるため、これらは他の貝に着いた状態で採集されたとみられる。

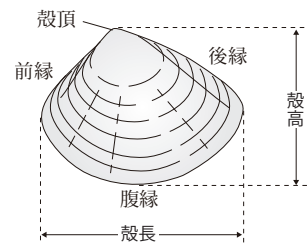
なお、小野(1961)では出土貝類として「アワビ」も挙げられているが、今回同定した資料中にアワビ類は確認できなかった。

② 二枚貝綱

海・汽水に棲息する種類が出土した。内湾砂～砂泥底群集、沿岸砂～砂泥底群集が多い。シジミ類としたものは、淡水のマシジミか汽水のヤマトシジミのいずれかであるが、周縁磨滅のため判別を避けた。数量をみると、破片数・最小個体数ともに圧倒的にハマグリが多く(なお、ハマグリと分類した資料にはチョウセンハマグリを含んでいる可能性がある)、オキシジミ・アサリがこれに次ぐ。これら3種以外にも、マガキ、シジミ科、フネガイ科、イガイ科、イタヤガイ科、バカガイ科などは現



【巻貝の各部名称】



【二枚貝の各部名称 (図は左殻)】

図2 貝類の部位名称と計測箇所

表4 腹足綱の出土数量

腹足綱	完・略完	殻頂残	殻底残	蓋1/2以上	蓋破片	破片	MNI	NISP
スガイ	101	2	2	11	1	3	103	120
カワニナ	103	-	7	-	-	2	110	112
サザエ	8	11	1	53	1	27	53	101
オオコシダカガンガラ	40	2	9	-	-	-	49	51
フトヘナタリ	11	5	11	-	-	2	22	29
イシダタミ	20	-	5	-	-	2	25	27
コシダカガンガラ	19	1	5	-	-	-	24	25
クボガイ	24	-	-	-	-	-	24	24
ツメタガイ	13	1	1	-	-	-	14	15
Thais属(レイシガイ/イボニシ)	14	-	-	-	-	-	14	14
ウミニナ	12	-	2	-	-	-	14	14
クボガイ類	2	10	2	-	-	-	12	14
レイシガイ	9	2	2	-	-	1	11	14
バテイラ科Cholorostoma属	1	-	2	-	-	10	3	13
カワアイ	3	-	6	-	-	-	9	9
ウミニナ?	1	1	5	-	-	-	6	7
ヒメクボガイ	7	-	-	-	-	-	7	7
スグヒダギセル?	-	4	1	-	-	2	4	7
テングニシ	3	-	2	-	-	1	5	6
バイ	5	-	1	-	-	-	6	6
ヘソアキクボガイ	6	-	-	-	-	-	6	6
Pirenella属(カワアイ/ヘナタリ)	2	-	4	-	-	-	6	6
イボニシ	5	-	-	-	-	-	5	5
オオヘビガイ	-	-	-	-	-	5	1	5
キバウミニナ科Cerithidea属?	3	-	2	-	-	-	5	5
キクスズメ	3	-	-	-	-	1	3	4
ヒダリマキゴマガイ	4	-	-	-	-	-	4	4
ヒメベッコウの仲間	4	-	-	-	-	-	4	4
スグヒダギセル	1	1	1	-	-	1	3	3
ヒメコハクガイ?/ヒメコハクガイの仲間	2	-	1	-	-	-	3	3
イボウミニナ	2	-	-	-	-	-	2	2
ヘナタリ	1	-	1	-	-	-	2	2
ホソウミニナ	1	-	1	-	-	-	2	2
ヒメベッコウ	2	-	-	-	-	-	2	2
ベッコウの仲間	1	-	-	-	-	1	2	2
アマオブネガイ科Clithon属	1	-	-	-	-	-	1	1
アマガイ	1	-	-	-	-	-	1	1
ウミニナ科	1	-	-	-	-	-	1	1
オオヘビガイ?	-	-	-	-	-	1	-	1
オカミガイ	1	-	-	-	-	-	1	1
オカミガイ科	1	-	-	-	-	-	1	1
オトヒメズメ	1	-	-	-	-	-	1	1
キクスズメ?	-	1	-	-	-	-	1	1
バテイラ科Omphalius属	-	-	1	-	-	-	1	1
サザエ?	-	-	-	-	-	1	-	1
テングニシ?	-	-	-	-	-	1	-	1
ヘナタリ?	1	-	-	-	-	-	1	1
ホソウミニナ?	1	-	-	-	-	-	1	1
マツバガイ	1	-	-	-	-	-	1	1
ナタネガイの仲間	1	-	-	-	-	-	1	1
ヒラマキミズマイの仲間	1	-	-	-	-	-	1	1

MNI: 最小個体数、NISP: 同定破片数

在でも食用になる種類であり、人の手で採集され食用になったと考えられる。一方、フタバシラガイ科は小型種が多いため、食用に採集されたものではなく、他の貝に混入して採集された可能性がある。また、フネガイ科の中には貝輪片・貝輪制作関連遺物の可能性がある破片が含まれ、装身具素材として採集された可能性がある。

③ 微小貝

砂を篩って得られた遺存体である。すべて腹足綱で、陸産貝は6科、淡水産貝は1科を同定した。

陸産貝はヒダリマキゴマガイ、小型のキ

表5 二枚貝綱の出土数量

二枚貝	殻頂:左	殻頂:右	破片	MNI	NISP
ハマグリ	1545	1598	1207	1598	4350
オキシジミ	170	240	262	240	672
アサリ	84	79	76	84	239
マガキ	10	6	35	10	51
シオフキ	10	12	1	12	23
チョウセンハマグリ	2	5	5	5	12
シジミ類	6	5	-	6	11
バカガイ科	2	1	7	2	10
オキアサリ/コタマガイ	6	2	1	6	9
バカガイ	2	4	1	4	7
ハマグリ属	2	4	1	4	7
オキアサリ	2	3	1	3	6
フネガイ科	-	-	4	2	4
イタヤガイ科	1	1	-	1	2
イガイ科	-	1	-	1	1
オオノガイ?	-	1	-	1	1
カガミガイ類	-	1	-	1	1
イチョウシラトリ	-	1	-	1	1
サルボウ	-	1	-	1	1
フタバシラガイ科	-	1	-	1	1

MNI: 最小個体数、NISP: 同定破片数

セルガイであるスグヒダギセル、ヒメコハクガイの仲間、ヒメベッコウの仲間などが複数個体出土した。これらは微小であることから人の手で採集されたものではなく、貝塚付近の森林に自然分布していたものが流れてきたと考えられる。

淡水産のヒラマキミズマイマイの仲間は、カワニナなどを採集する際に混入したと考えられる。

2) 貝類以外の無脊椎動物

現場での採取ではなく、砂を篩って抽出した遺存体であるため、いずれも小破片である。棘皮動物門のウニ類、節足動物門のフジツボ類の殻・カニ類の可動指の指節の破片が出土した。

3) 脊索動物門

① 硬骨魚綱

現場で目視採取されていた遺存体と、砂を篩って抽出した遺存体から、4目8科を同定した（表3）。

ニシン科

ウルメイワシ、マイワシが出土している。29-6 B II IV溝中貝層のウルメイワシ（腹椎）は推定全長 20 cm 台前半程度である。29-6 のマイワシ（腹椎）は全長 17.3 cm の標本より小さい。

トビウオ科

29-6B II IV溝中貝層から、尾椎 1 点が出土した。

スズキ科

28-1A2 と 29-6B II IV溝中貝層から、スズキ科の小型の腹椎が 1 点ずつ出土した。

アジ科

表6 貝類以外の動物の出土破片数

分類名	ウニ類	フジツボ類	カニ類	硬骨魚綱 種類不明	ニシン科?	ウルメイワシ	マイワシ	トビウオ科	スズキ科	アジ科	タイ科	マダイ亜科	クロダイ属	ペラ科	サバ類	カワハギ科	哺乳綱 種類不明	テン	イノシシ	ニホンジカ	クジラ類	
殻片	19	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
棘片	108	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
指節	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
角	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
上顎骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
主上顎骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
歯骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
下顎骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
歯	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-
角骨	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
主鰓蓋骨	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
肩甲骨	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
上腕骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
尺骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
中手骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
距骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
腹椎	-	-	-	5	-	1	1	-	2	1	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
尾椎	-	-	-	6	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎骨	-	-	-	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
尾部棒状骨	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鰭棘	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	3	-	-	-	-	-	-
鱗	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
部位不明	-	-	-	31+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-	1
合計	127	6	3	94+	1	1	1	1	2	1	2	1	1	2	2	3	14	1	7	8	1	1

28-1A2 の腹椎はマアジに近似し、全長 14 cm のマアジ標本よりやや大型である。

タイ科

04-1 のクロダイ属第 2 臀鰭棘は黒く焼けており、推定体長は 30 cm 台前半である。また、タイ科の第 2 腹椎も黒く焼けており、こちらは体長 50 cm 以上の大型個体と推定される。

ベラ科

2 点出土した。全長 14.2 cm のキュウセン標本と比較すると、29-6 の左主上顎骨は標本とほぼ同サイズ、28-1A2 の右歯骨は標本よりやや小型である。サイズの違いはわずかであるため、同一個体の可能性がある。

サバ科

28-3A2、29-5A3 からサバ類の腹椎が 1 点ずつ出土した。

カワハギ科

28-1A2、28-9、90-2A2 から、小型の背鰭棘が 1 点ずつ出土している。残存部分を考慮した最小個体数は 2 体である。

② 哺乳綱

現場で目視採取されていた遺存体である。2 目 3 科を同定した。

テン

04-1 箱内の資料は右下顎骨の破片であった。

イノシシ

04-1 の箱内資料から左右上顎骨、左肩甲骨、左上腕骨、尺骨、左距骨を同定した。幼獣、若獣、成獣の骨であり、年齢段階の異なる複数個体に由来する資料群である。肩甲骨・上腕骨・距骨には人為的なカットマークが残る。

ニホンジカ

04-1 の箱内資料は角、胸椎、左上腕骨、中手骨である。このほか、29-4A3 から臼歯片、29-7B III 包含踏みかため層から右下顎骨の可能性がある破片と右下顎第 3 大臼歯が出土した。04-1 の角片には加工痕跡がみられる。04-1 の上腕骨は幼獣、29-7B III 包含踏みかため層の第 3 大臼歯は 8 歳以上とみられる成獣であり、年齢段階の異なる複数個体に由来する資料群である。04-1 の胸椎・上腕骨・中手骨は焼けており、そのうちの胸椎と上腕骨には人為的なカットマークが残る。

クジラ類

04-1 の箱内に 1 点のみクジラ類とみられる骨片がある。部位は不明である。人為的なカットマークが残る。

3. 潮待貝塚にみる貝類の利用

1) 貝類の棲息環境

主な採集対象とされた貝種の棲息環境から、採集場所について考えたい。

貝類全体の破片数では二枚貝綱 88%、腹足綱 12% と、圧倒的に二枚貝綱が多い。二枚貝綱の中では破片数・最小個体数ともにハマグリが 80% 以上を占め、ハマグリ・オキシジミ・アサリの主要 3

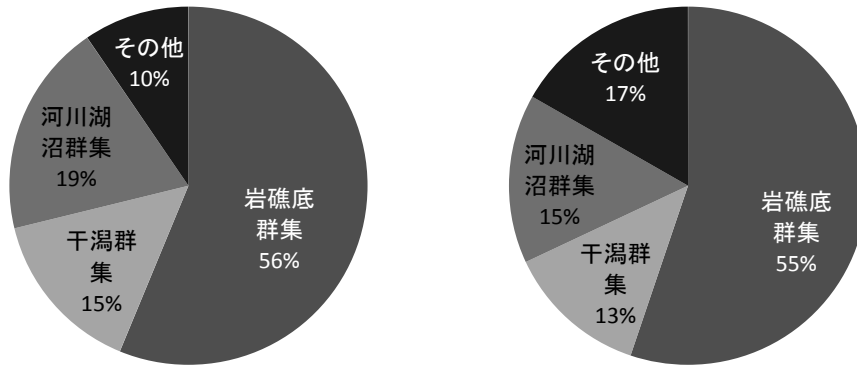


図3 腹足綱の棲息環境別割合（左：MNI、右：NISP）

種で二枚貝綱全体の97%を占める。二枚貝類については、内湾・河口域に棲息するハマグリを採集の主対象にしていたことが明らかである。

腹足綱では、破片数と最小個体数では最多種と第2位が入れ替わるものの、上位3種はスガイ・カワニナ・サザエであり、この3種で腹足綱の半数を占める。腹足綱を棲息環境で分けると、破片数・最小個体数ともに岩礁底群集が過半数を占め、河川湖沼群集・干潟群集がこれに次ぐ（図3）。

以上のことから、湾内～河口干潟・岩礁域・河川という3つの環境が貝類の主な採集場所だったと言える。

現在の安岡海岸は安岡本町の村崎ノ鼻と綾羅木南町の鼻ヅラ

の間にゆるやかな弧を描く海岸線を有し、友田川・梶栗川・綾羅木川などの河川が響灘へそそぎこんでいる（図1）。現状の海岸は砂浜が狭く、内湾～河口干潟を好むハマグリやオキシジミの棲息に適した環境とは考えにくい。幸泉（2016）で推定されているように、利用した貝の棲息環境からも、当時の潮待貝塚周辺は現在の河川下流域に海が入りこみ、現状よりも入り組んだ海岸線を形成していたと推測される（図4）。こうした地形には、ハマグリを好む内湾～干潟環境が分布していたのであろう^{*1}。潮待貝塚から岩礁域の村崎ノ鼻・汽水域の綾羅木川河口へはどちらも直線距離で2 km 以内であり、その付近での貝採集は数時間もあれば可能だったとみられる。当時の地形が不明であるため、具体的な貝採集地を特定することはできないが、日常的な貝採集場所として安岡海岸、河口干潟、河川が利用されたと考えられる。

なお、少量ながら陸産貝類が出土している。これらは移動範囲が比較的に狭いため、付近の環境を反映していると考えられる。遺跡の立地する砂堆の後背地上に森林があり、地表面には落葉が堆積していたことが想像される。

2) 被熱痕跡と殻サイズ

焼殻は腹足綱 741 点のうち 2 点、二枚貝綱 5447 点のうち 9 点であり、貝類全体のわずか 0.2%

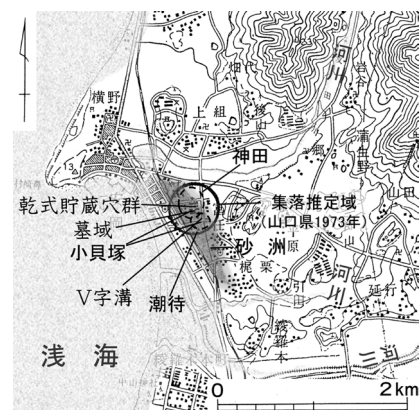


図4 潮待貝塚周辺環境の推定図（幸泉 2016 より転載）

にとどまる。殻付きの状態ですぐで焼く調理法は一般的ではなかったとみられ、加熱方法には煮る・蒸すなどが想定される。

貝殻のサイズは、二枚貝綱の主体種であるハマグリ・オキシジミ・アサリの3種について検討する。

ハマグリ右殻の殻長・殻高分布を示したのが図5である。殻長は30.0～44.9 mmに集中する。29.9 mm以下のサイズは少ない。殻長45 mmを超えるサイズは大きいほど数が減るが、80 mmを超えるものまで採集されている。殻高は25.0～39.9 mmに集中し、殻長同様に大きいものほど少ない。奥谷編(2017)によればハマグリは平均的殻長サイズは85 mmであるため、潮待貝塚で採集されたハマグリは小型の個体を中心である。現在のデータであるが、ハマグリは5～7月に産卵し、殻長は満2年で約33 mm、満3年で約45 mm、満4年で約57 mmに成長する^{*2}。産卵可能になるサイズは殻長30～40 mmとされ、潮待貝塚では多く捕られているサイズである。捕獲圧がかかり、将来的な資源の維持が難しい状況だったか、未成熟個体を多く捕っても資源が回復する程度にハマグリは棲息数が多かった可能性がある。

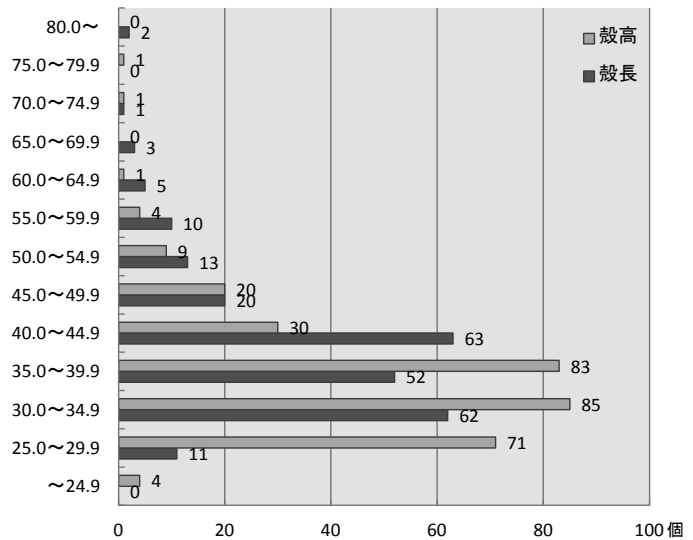


図5 ハマグリ右殻の殻長・殻高分布 (単位はmm)

オキシジミ右殻の殻長・殻高分布は図6に示した。ハマグリほどバラつきはなく、殻長・殻高ともに25.0～54.9 mmの範囲内である。殻長・殻高ともに30.0～44.9 mmの範囲に集中がみられる。奥谷編(2017)によればオキシジミの平均的殻長サイズは45 mmであるため、潮待貝塚で採集されたオキシジミは平均より小型～平均的サイズの個体を中心である。

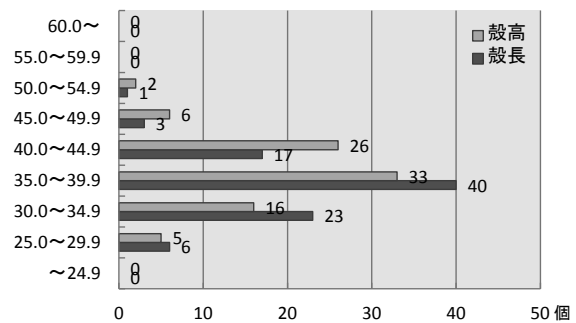


図6 オキシジミ右殻の殻長・殻高分布 (単位はmm)

アサリ右殻の殻長・殻高分布を示したのが図7である。バラつきは少なく、殻長は25.0～49.9 mm、殻高は20.0～39.9 mmの範囲に収まる。殻長のピークは40.0～44.9 mmに、殻高のピークは30.0～34.9 mmにみられる。奥谷編(2017)によれば、アサリの平

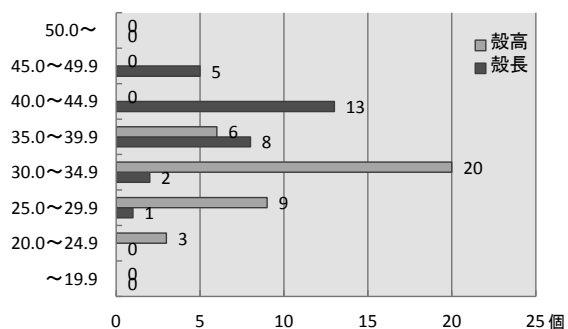


図7 アサリ右殻の殻長・殻高分布 (単位はmm)

均的殻長サイズは 40 mm であるため、潮待貝塚で採集されたアサリは平均的サイズの個体が中心である。現在の人工種苗の放流調査では、アサリは春と秋に産卵し、殻長は満 1 年で 20 ~ 25 mm、満 1 年半 ~ 2 年で 30 ~ 40 mm 程度に成長する^{*3}。産卵可能サイズは殻長 20 mm とされるため、アサリに関しては捕獲圧は無かったと思われる。

3) 食用以外の利用

先述のように、貝製品素材の採集もされている。これまでにタマキガイ科製貝輪に加えて貝輪の可能性のあるフネガイ科の破片数点が知られていたが(澤下 2003・川島 2016)、今回新たに研磨痕がみられるフネガイ科製貝輪片 1 点(29-7 A5)を見出した。今回分析した資料中では、比較的大きいサイズのサルボウ 1 点を除き同定したフネガイ科はいずれも破片であり、当地で貝輪を作製していた可能性がある。

4. 潮待貝塚にみる貝類以外の動物の利用

貝類以外の動物は、貝類に比べて出土量が圧倒的に少ない。利用頻度が低かったか、利用後の廃棄場所が異なっていたと考えられる。

1) 無脊椎動物

無脊椎動物ではウニ類やカニ類の遺存体が出土した。これらも貝類と同様に食用のために採集していた可能性があるが、細片化しているため利用の頻度や状況について考える情報が不足している。

2) 硬骨魚綱

淡水魚は確認されず、すべて海洋(特に沿岸)に棲む魚種であった。回遊魚のマイワシも産卵期には沿岸に寄るため、沿岸漁撈で入手できたと考えられる。比較的种类数が多いことから、様々な魚種を対象とした沿岸漁撈がおこなわれていたことがわかる。タイ科は比較的大きいサイズの大きい個体であるため刺突漁も可能であるが、その他の魚類はサイズが小さいため網漁が想定される。

なお小野(1961)では、潮待貝塚出土魚類に「タイ・アカエイなど」が挙げられている。今回分析した資料中にはエイ類の骨は含まれていなかったため、資料が分散している可能性があり、今回の同定結果だけで潮待貝塚の魚類相を把握することはできない。

被熱痕跡については、焼骨および焼骨の可能性のある骨は 16 点認められ、魚骨全体の 14% ほどである。推定体長の大きいクロダイ属・タイ科第 2 腹椎は全体が真っ黒に変色しており、調理による被熱とは考えにくい。魚類についても貝類と同様に、直火での調理は一般的ではなかったとみられる。

3) 哺乳綱

陸生・海生の哺乳類が利用されている。

陸生哺乳類では、全国的に縄文時代の低地での狩猟獣として出土例の多いイノシシとニホンジカが利用されていた。年齢段階の異なる複数個体が想定され、カットマークが認められることから、食肉

として捕獲・利用したものである。ニホンジカは加工痕跡の残る角片が出土しているため、角を生活用具の素材として利用していた。中小獣はテン1種のみであり、中小獣狩猟が生業全体に占める割合は不明である。

なお既刊の報告では、潮待貝塚出土陸生動物には「イノシシ・シカ・イヌなど」(小野 1961)、「小禽類」(小川 1955)が挙げられている。しかし、今回分析した資料にはイヌや鳥綱の骨は含まれていなかったため、資料が分散している可能性があり、今回の同定結果だけで潮待貝塚の鳥獣相を把握することはできない。

海生哺乳類はクジラ類の骨片が1点出土しており、沿岸に流れ着いたクジラ類の利用がおこなわれていたと考えられる。

被熱痕跡については、焼骨および焼骨の可能性のある骨は9点認められ、獣骨全体の29%ほどである。イノシシ・ニホンジカの骨には全体が真っ黒に変色したものもあり、やはり調理による被熱とは考えにくい。先述のタイ科の状況も考慮すると、比較的サイズの大きい骨が真っ黒に焼けている傾向がある。食糧残渣である骨のうち、大きめの骨を焼く習慣があった可能性や、あるいは焼けていない大きな骨はイヌや野生の肉食動物に持ち去られて貝塚に残らなかった可能性などが想定される。

5. まとめ

潮待貝塚出土資料のうち、山口大学埋蔵文化財資料館に保管されている動物遺存体を対象に、動物考古学の方法で整理と検討をおこなった結果、以下のことが明らかになった。

- 貝類については、既刊報告に列挙されていた種類を確認するとともに、砂を篩うことでこれまで知られていなかった微小貝を検出した。
- これらの数をカウントした結果、潮待貝塚はハマグリを主体とする貝塚であり、そのハマグリはサイズの小さいものが多い。
- 内湾～河口干潟・岩礁域・河川の3つの環境が主な貝類採集環境と考えられ、いずれも遺跡から半径3kmの圏内におさまる^{*4}。
- 食用以外の貝利用として、タマキガイ科やフネガイ科の貝輪が出土している。これらの種類は貝輪素材として採集され、当地で貝輪製作がおこなわれた可能性がある。
- 貝類以外の無脊椎動物では、貝類採集と同時に捕獲できたとみられるウニ類やカニ類を利用していた可能性がある。
- 漁撈は生業に占める割合が低かった可能性があるが、沿岸に棲む多魚種を対象としていた。イワシ類など小型の個体が含まれることから、網漁がおこなわれていたと推測される。
- 流れ着いたクジラ類の利用もおこなわれていたと考えられる。
- 陸獣狩猟は漁撈と同様に、生業に占める割合は低かった可能性がある。イノシシ・ニホンジカは様々な年齢段階の個体が狩猟対象にされた。ニホンジカの角は道具の素材としても利用された。
- 既刊報告に列挙された種で、今回確認できなかったものがある。発掘後に資料が分散した可能性があり、今回の結果だけで動物利用全体について語ることはできない。

おわりに

潮待貝塚は、下関市域では数少ない動物遺物を残す縄文時代の遺跡である。本稿では「何をどれだけ利用したか」という基礎資料の提示を目的として報告をおこなった。これを基に目的に応じた詳細な分析が実施され、当時の人々の生活実態に迫る研究が進むことが期待される。

潮待貝塚の所在する下関市安岡地域は、農業とともに漁業の盛んな地域である。そのなかで、少なくとも近世まではハマグリ産地として著名だったことはあまり知られていないのではないだろうか^{*5}。今回の動物遺存体の調査では、潮待貝塚を残した人々の生業に占める貝類利用、なかでもハマグリ利用の割合が非常に高かったことが確認できた。安岡海岸のハマグリが縄文時代後期から盛んに利用されていた事実も、地域の産業史として後世に伝えてゆきたい情報である。

そして、貝利用ばかりでなく漁撈と陸獣狩猟にも目を向ける必要がある。今回わずかな量の砂を篩がけしただけでも複数種類の小型魚類骨が検出でき、発掘時に見落とされた微細遺存体の存在が明らかになった。本来は小型動物も資源として多く利用されたと考えられることに注意をうながしておきたい。

なお、潮待貝塚から北西に200mほど離れた地点には神田遺跡がある。神田遺跡は潮待貝塚と同時期の遺物が出土しており、貝塚も検出されている。両遺跡は時期・立地の共通点から関連性があるとみられているが、神田遺跡から出土した動物遺存体の内容は知られていないため、今後は神田遺跡についても動物遺存体の確認と整理・検討をおこなう必要性を感じている。

最後になりましたが、資料を調査させて頂いた山口大学埋蔵文化財資料館の方々、貝の同定にご協力頂いた増野和幸氏・堀成夫氏、近世の安岡貝に関する文献をご教示頂いた河田聡氏に感謝申し上げます。

註

*1 網尾（1981）による弥生時代前期後半～中期前半の綾羅木郷遺跡出土貝類の報告から、弥生時代前半期の綾羅木川河口部の環境が推測できる。綾羅木郷遺跡は河口汽水域に棲むヤマトシジミが主体であり、河口汽水域・干潟に棲息する種の合計は貝類全体の半数を占める（報告文中の「個体数」の集計による）。当然、潮待貝塚とは距離と時期に差があるため、人々の貝採集場所も沿岸環境も異なっていた可能性があるが、ここからは綾羅木川河口干潟の生産性が高かったことをうかがい知ることができる。同報告では、綾羅木郷遺跡の立地する台地の南に河口デルタ地帯が広がっていたと想定されている。また、第2次大戦の終戦当時は現在の綾羅木新町一帯の綾羅木川河口にはヨシ原が広がり、ヤマトシジミやハマグリが容易にとれていたようで、満潮時には新下関駅付近まで汽水域が広がっていたらしい。響灘沿岸は考古遺跡が多く分布する歴史的に重要な地域であるため、学際的な方法により縄文時代から現在に至る地形・環境の変遷が明らかにされることが望まれる。

*2 三重県おさかな図鑑 (<http://www.pref.mie.lg.jp/TNORIN/HP/36878031562.htm>) より。

*3 山口県 2012「アサリ 栽培てびき（改訂版）」(<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/d/e/8/de8b82689b11670154439ec43b2dbefc.pdf>) より。

*4 縄文時代の生業領域について論じた富岡（2010）によれば、縄文時代の生業圏は半径10km圏内におさまることが予想され、その中でも、体力の乏しい子供や老人でも移動できるきわめて狭い日常的活動領域として半径3km圏が想定されている。

*5 貝原益軒が編纂した『大和本草』（1709年刊行）十四巻「蛤蜊」の項には、「此蛤蜊ハ長門ノ安岡貝筑前ノ野比貝是ナルヘシ」とあり、この頃すでに安岡貝として知られていた。また、農林省水産局が編纂した『水産調査資料第四輯 舊藩時代の漁業制度調査資料第二編 豊浦郡水産史料』（1935年刊行）には、寛政12（1800）年・享和元（1801）年・嘉永6（1853）年の各年に安岡の蛤あるいは大蛤を萩の城へ献上したなどの記述がある。

参考・引用文献

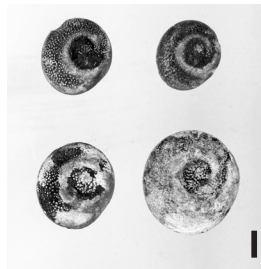
- 東 正雄 1995 『原色日本陸産貝類図鑑（増補改訂版）』保育社。
- 阿部 永ほか 2005 『日本の哺乳類（改訂版）』財団法人自然環境研究センター編，東海大学出版会。
- 網尾 勝 1981 綾羅木郷台地遺跡出土の貝. 『綾羅木郷遺跡 発掘調査報告 I』下関市教育委員会：498-503.
- 逸見泰久ほか 2012 『干潟の絶滅危惧動物図鑑 ー海岸ベントスのレッドデータブッカー』日本ベントス学会編，東海大学出版会。
- 伊藤照雄 2000 潮待貝塚. 『山口県史 資料編 考古1』山口県：4171-172.
- 小川五郎 1955 山口県下ノ関市潮待貝塚. 『日本考古学年報3. 昭和25年度』日本考古学協会編纂，誠文堂新光社：64-65.
- 奥谷喬司編 2017 『日本近海産貝類図鑑（第二版）』東海大学出版部。
- 小野忠熙 1961 潮待貝塚. 『山口県文化財概要第4集 埋蔵文化財』山口県教育委員会：66-71.
- 小野忠熙 1975 考古地理学からみた響灘沿岸の砂質海岸の形成. 『第四紀研究』14-4：239-249.
- 川島尚宗 2015 山口県の貝塚について. 『第26回中四国縄文研究会四国大会 中四国の縄文貝塚発表要旨・資料集成』第26回中四国縄文研究会四国大会事務局：21-26.
- 川島尚宗 2016 潮待貝塚出土資料調査報告. 『館蔵資料調査研究報告書5 見島ジーコンボ古墳群第124号墳・潮待貝塚 出土資料調査報告』山口大学埋蔵文化財資料館編，山口大学：29-47.
- 幸泉満夫 2016 中国・四国地方における縄文貝塚の多様性に関する基礎的考察. 『愛媛大学法文学部論集 人文学科編 vol.40』愛媛大学：75-118.
- 澤下孝信 2000 下関市域出土資料の研究1 ー下関市潮待貝塚の遺物1 ー. 『研究紀要 第4号』下関市立考古博物館：41-52.
- 澤下孝信 2003 下関市域出土資料の研究2 ー下関市潮待貝塚の遺物2 ー. 『研究紀要 第7号』下関市立考古博物館：25-35.
- 富岡直人 1999 貝類. 『考古学と自然科学2. 考古学と動物学』西本豊弘・松井 章編，同成社：89-117.
- 富岡直人ほか 2002 脊椎動物遺存体画像と切創に関するデータベース構築. 『日本文化財科学会第19回大会研究発表要旨集』日本文化財科学会：170-171.
- 富岡直人 2010 縄文時代の動物質資源と生業圏. 『縄文時代の考古学4. 人と動物の関わりあい. 食料資源と生業圏』同成社：3-21.
- 中坊徹次編 2000 『日本産魚類検索 全種の同定 第二版』東海大学出版会。
- 波部忠重ほか 1967 『標準原色図鑑全集 第3巻 貝』保育社。
- 福田 宏ほか 1992 『概説 山口県の貝類』山口県立山口博物館。
- 湊 宏 1988 『日本陸産貝類総目録』日本陸産貝類総目録刊行会。
- 吉村次郎 1965 潮待貝塚. 『下関市史 原始・中世』下関市市史編修委員会編，下関市役所：104-114.



1. イシダタミ
[28-1 A2]



2. サザエ殻体
[28-8 No. 8]



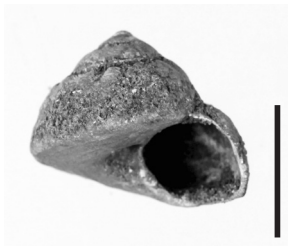
3. サザエ蓋
[28-1 A2]



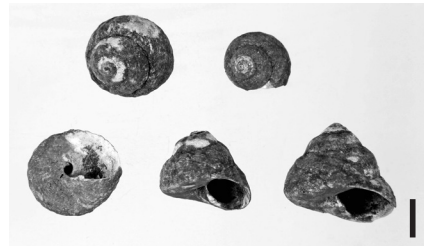
4. スガイ
[28 No. 1]



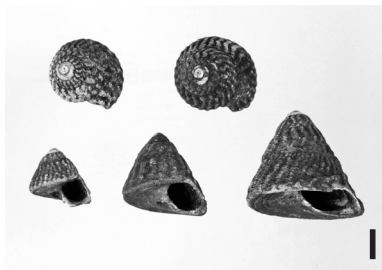
5. クボガイ
[28 No. 1]



6. ヒメクボガイ
[28-1 A2]



7. コシダカガンガラ
[28 No. 1]



8. オオコシダカガンガラ
[28 No. 1]



9. アマガイ
[29-6 B II IV溝中貝層]



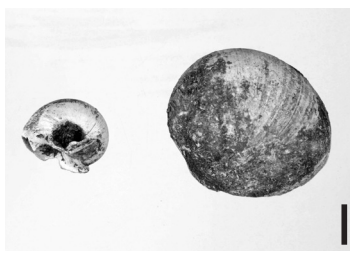
10. フトヘナタリ
[28 No. 1]



11. ヘナタリ
[28 No. 1]



12. カワニナ
[28 No. 1]



13. ツメタガイ
[28-1 A2]



14. テングニシ
[29-1 A5]



17. オカミガイ
[29-9 A 間層]



15. バイ
[29-6 B II IV溝中貝層]



16. レイシガイ
[28 No. 1]

スケール：10 mm

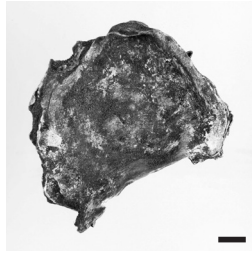
写真1 潮待貝塚出土動物遺存体(1) 腹足綱



1. サルボウ右殻
[28-9]



2. イガイ科右殻
[29-3 A3]



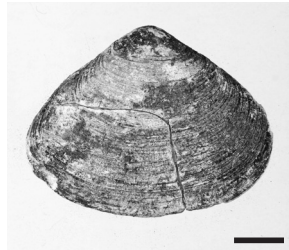
3. マガキ左殻
[29-5 A3]



4. イタヤガイ科左殻・右殻
[29-6 B II IV溝中貝層]



5. シジミ類左殻
[90-2 A2]



6. コタマガイ右殻
[90-2 A2]



7. オキアサリ／コタマガイ
右殻 [28-1 A2]



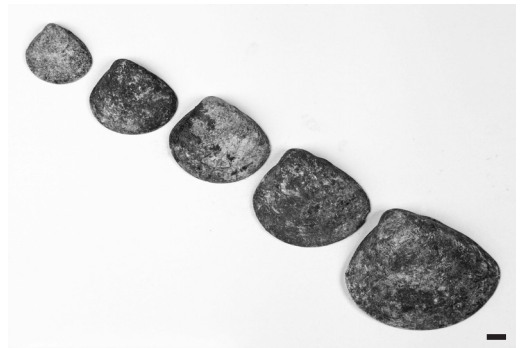
8. チョウセンハマグリ右殻
[28-2]



9. アサリ左殻
[28-1 A2]



10. オキシジミ左殻
[28-1 A2]



11. ハマグリ左殻
[29-5 A3]



12. イチョウシラトリ右殻
[90-2 A2]



13. バカガイ右殻
[28-1 A2]



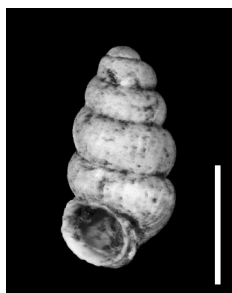
14. シオフキ左殻
[29-5 A3]



15. オオノガイ右殻？
[si A2]

スケール：10 mm

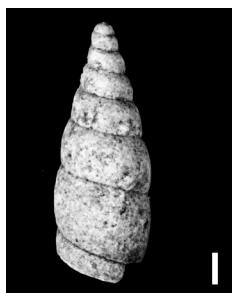
写真2 潮待貝塚出土動物遺存体（2） 二枚貝綱



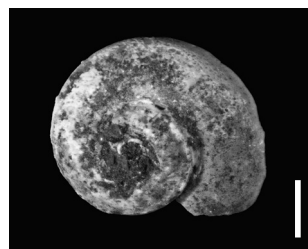
1. ヒダリマキゴマガイ
[29-4 A3]



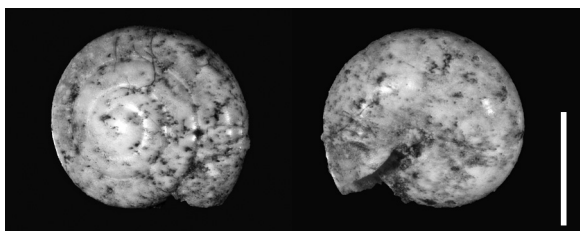
2. スグヒダギセル
幼貝 [29-2 A3]



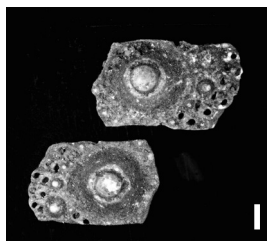
3. スグヒダギセル
殻頂部 [27-5 A5]



4. ヒラマキミズマイマイの
仲間 [29-4 A3]



5. ヒメベッコウの仲間
[29-4 A3]



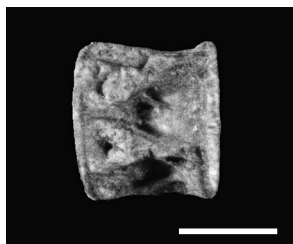
6. ウニ類殻片
[29-2 A3]



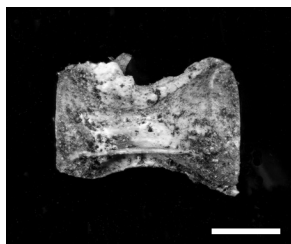
7. ウニ類棘片
[90-2 A2]



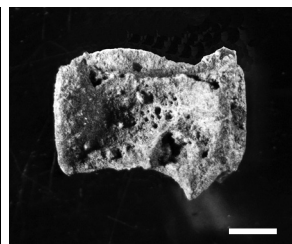
8. カニ類指節
[29-1 間層 2]



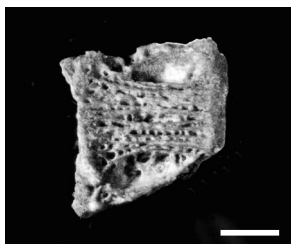
9. マイワシ腹椎
[29-6]



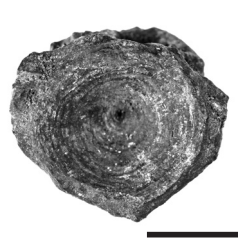
10. ニシン科?尾椎
[27-9]



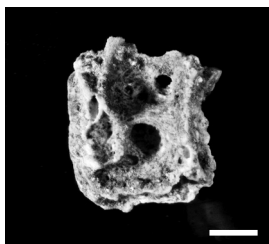
11. アジ科腹椎
[28-1 A2]



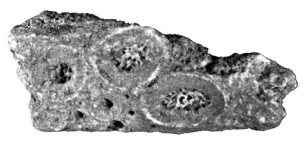
12. スズキ科腹椎
[28-1 A2]



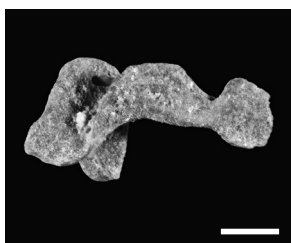
13. タイ科第2椎骨
[04-1 注記なし]



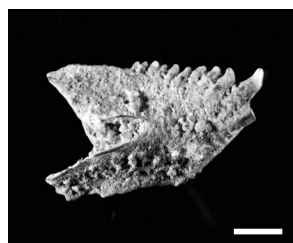
14. タイ科腹椎
[28-9]



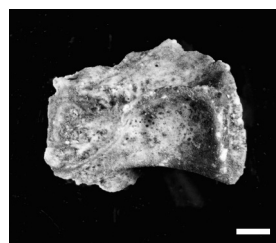
15. マダイ亜科右歯骨
[28-9]



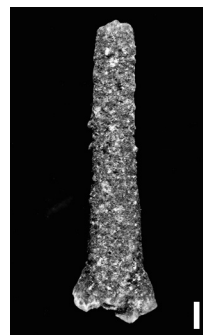
16. ベラ科左上顎骨
[29-6]



17. ベラ科右歯骨
[28-1 A2]



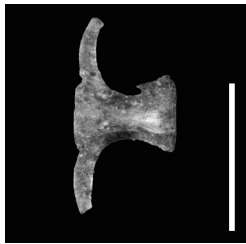
18. サバ科腹椎
[28-3 A2]



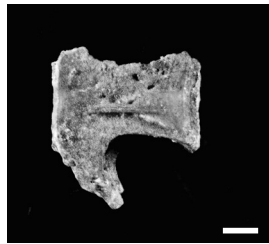
19. カワハギ科
背鱗棘 [90-2 A2]

スケール：13のみ10mm、他は1mm

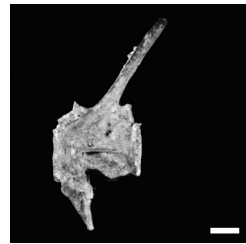
写真3 潮待貝塚出土動物遺存体(3) 微小貝・貝類以外の無脊椎動物・硬骨魚綱



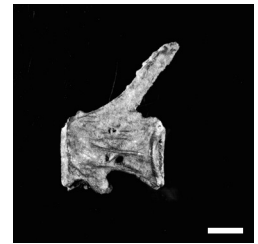
1. 種不明魚類(ハゼ科?)
腹椎 [29-1 A3]



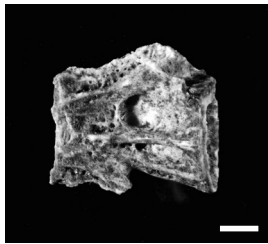
2. 種不明魚類腹椎
[29-6]



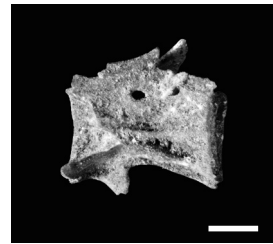
3. 種不明魚類腹椎
[29-6]



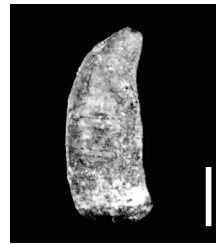
4. 種不明魚類腹椎
[29-6]



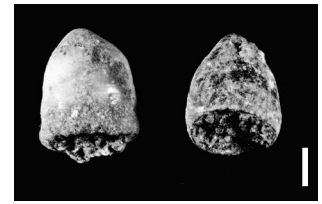
5. 種不明魚類尾椎
[28-7 A3]



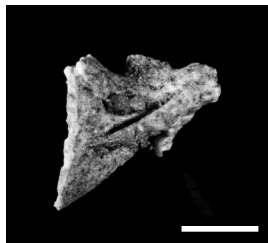
6. 種不明魚類尾椎
[28-9]



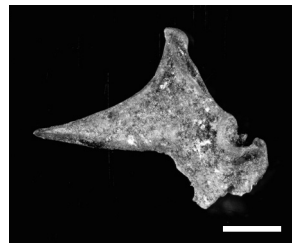
7. 種不明魚類
犬歯状歯 [29-6]



8. 種不明魚類
円錐状歯 [29-6]



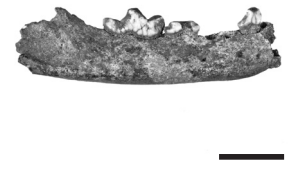
9. 種不明魚類
尾部棒状骨 [28-1 A2]



10. 種不明魚類左角骨
[90-2 A2]



11. 種不明魚類櫛鱗
[29-4 A3]



12. テン右下顎骨
[04-1 注記なし]



13. イノシシ左上顎骨
[04-1 siA5]



14. イノシシ幼獣
右肩甲骨 [04-1 si旧溝]



15. イノシシ
左距骨 [04-1 siA4]



16. ニホンジカ左上腕骨
[04-1 注記なし]



17. ニホンジカ角片
[04-1 siA5]



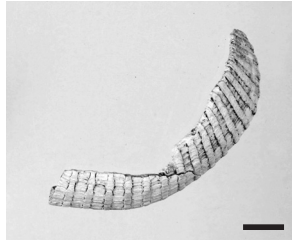
18. クジラ類
部位不明骨片 [04-1 siA2]

1～11のスケール：1mm、12～18のスケール：10mm

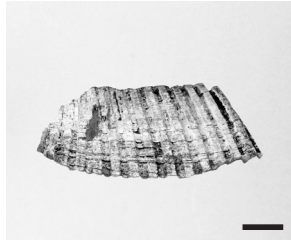
写真4 潮待貝塚出土動物遺存体(4) 硬骨魚綱・哺乳綱



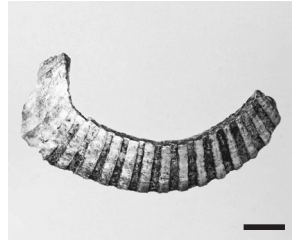
1. 貝輪片 (フネガイ科)
[29-7 A5]



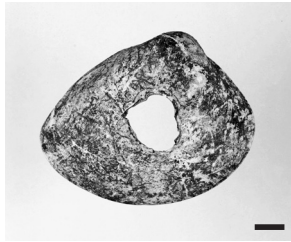
2. 貝輪作製関連遺物?
(フネガイ科) [90-2]



3. 貝輪作製関連遺物?
(フネガイ科) [11-15 siA2]



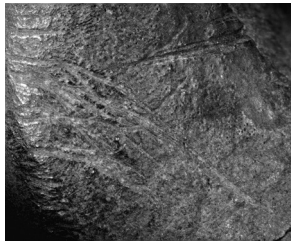
4. 貝輪作製関連遺物?
(フネガイ科) [04-1 siA3]



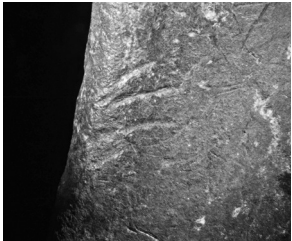
5. 穿孔のあるハマグリ右殻
[90-2]

スケール：10 mm

写真5 潮待貝塚出土動物遺存体 (5) 貝輪・貝製品関連遺物



イノシシ左距骨
内側～底面
[04-1 siA4]



イノシシ幼獣右肩甲骨
後縁
[04-1 si 旧溝]



ニホンジカ胸椎
棘突起左側面
[04-1 siB Ⅲ西拵旧溝]



ニホンジカ左上腕骨
頸部
[04-1 注記なし]

写真6 潮待貝塚出土動物遺存体 (6) カットマーク

表7 同定結果一覧 (貝類)

ラベル内容	分類	L/R	殻体				蓋		色調	備考(計測値の単位はmm)
			完~略 完形	殻頂部 片	殻底部 片	殻体部 片	完~ 1/2	1/2以 下		
04-1 -	腹足綱 サザエ?	M				1		-	大型個体の殻軸	
04-1 Si A2	二枚貝綱 ハマガリ属	R				1		-		
04-1 Si A2	二枚貝綱 オオノガイ?	R?				1		-		
04-1 Si A3	二枚貝綱 フネガイ科	R				1		-	明瞭な加工痕跡はないが、貝輪制作関連遺物か?	
04-1 Si B I 3	二枚貝綱 チョウセンハマグリ	L	1					-		
11-5 Si A2	二枚貝綱 フネガイ科	L				1		-	明瞭な加工痕跡はないが、貝輪制作関連遺物か?	
13-7 A2	腹足綱 クボガイ	M	1					-		
13-7 A2	腹足綱 イシダタミ	M	1					-	殻長:18.6	
13-7 A2	腹足綱 サザエ	M	1				2	-	殻長:30.5、蓋最大径:25.6、25.8±	
13-7 A2	腹足綱 スガイ	M	1				1	-		
13-7 A2	腹足綱 ウミニナ	M			2			-		
13-7 A2	腹足綱 カワニナ	M	4					-		
13-7 A2	腹足綱 ツメタガイ	M	1					-	比較的大型個体	
13-7 A2	腹足綱 不明	M				3		-		
13-7 A2	腹足綱 スグヒダギセル	M			1			-		
13-7 A2	腹足綱 スグヒダギセル?	M				1		-		
13-7 A2	腹足綱 ヒメコハクガイ?	M	1					-		
13-7 A2	二枚貝綱 イタヤガイ科	R				1		-		
13-7 A2	二枚貝綱 マガキ	R	1					-	殻長:42.4	
13-7 A2	二枚貝綱 マガキ	?				6		-		
13-7 A2	二枚貝綱 バカガイ科	L		1				-	シオフキ?	
13-7 A2	二枚貝綱 バカガイ科	R		1				-	シオフキ?	
13-7 A2	二枚貝綱 Macridiscus属	L		2		1		-	コタマガイかオキアサリ	
13-7 A2	二枚貝綱 ハマガリ	L	40	105				-		
13-7 A2	二枚貝綱 ハマガリ	R	31	107				-		
13-7 A2	二枚貝綱 ?	?				159		-		
13-7 A2	二枚貝綱 アサリ	L	4	2				-		
13-7 A2	二枚貝綱 アサリ	R	4	2				-		
13-7 A2	二枚貝綱 アサリ	?				15		-		
13-7 A2	二枚貝綱 オキシジミ	L	4	6				-		
13-7 A2	二枚貝綱 オキシジミ	R	7	9				-		
13-7 A2	二枚貝綱 オキシジミ	?				26		-		
13-7 A2	二枚貝綱 不明	?				4		-		
27-9 -	二枚貝綱 不明	M				4		-		
27-9 -	腹足綱 クボガイ	M	3					-		
27-9 -	腹足綱 ヒメクボガイ	M	1					-		
27-9 -	腹足綱 コシダカガンガラ	M	5					-		
27-9 -	腹足綱 オオコシダカガンガラ	M	4					-		
27-9 -	腹足綱 イシダタミ	M	3					-		
27-9 -	腹足綱 サザエ	M	2			1	3	-	蓋最大径:22.6、15.0	
27-9 -	腹足綱 スガイ	M	19					-		
27-9 -	腹足綱 ウミニナ	M	1					-		
27-9 -	腹足綱 フトヘナタリ	M			1			-		
27-9 -	腹足綱 カワニナ	M	19					-		
27-9 -	腹足綱 レイシガイ	M	1	1	1			-		
27-9 -	腹足綱 ハマガリ	L				1		-		
27-9 -	腹足綱 オオヘビガイ?	M				1		-		
27-9 -	腹足綱 ヒダリマキゴマガイ	M	1					-		
27-9 -	腹足綱 スグヒダギセル	M				1		-	幼貝	
27-9 -	腹足綱 不明	?				1		-		
28 No.1	腹足綱 サザエ	M		4				-		
28 No.1	腹足綱 サザエ	M					1	-		
28 No.1	腹足綱 サザエ	M					1	-		
28 No.1	腹足綱 スガイ	M	8					-		
28 No.1	腹足綱 クボガイ	M	2					-		
28 No.1	腹足綱 ヒメクボガイ	M	1					-		
28 No.1	腹足綱 Cholorostoma属	M	1		1			-	クボガイかヘソアキクボガイ	
28 No.1	腹足綱 クボガイ類	M		1				-		
28 No.1	腹足綱 コシダカガンガラ	M	4		2			-		
28 No.1	腹足綱 オオコシダカガンガラ	M	11		2			-		
28 No.1	腹足綱 ヘナタリ	M			1			-		
28 No.1	腹足綱 フトヘナタリ	M	4					-		
28 No.1	腹足綱 Pirenella属	M			3			-	カワアイかヘナタリ	
28 No.1	腹足綱 カワニナ	M	17		1			-		
28 No.1	腹足綱 ツメタガイ	M			1			-		
28 No.1	腹足綱 レイシガイ	M	7		1			-	殻長:61.5、49.7、47.9、38.6、36.1+、32.7+、35.8	
28 No.1	腹足綱 不明	M			4	2		-	ヘナタリ類などの小破片	
28 No.1	二枚貝綱 ハマガリ	L	3	5				-		
28 No.1	二枚貝綱 ハマガリ	R	4	6				-		
28 No.1	二枚貝綱 ハマガリ	?				2		-		
28-1 A2	腹足綱 ヒメクボガイ	M	2					-		
28-1 A2	腹足綱 クボガイ類	M				1		-		
28-1 A2	腹足綱 オオコシダカガンガラ	M	1		1			-		
28-1 A2	腹足綱 イシダタミ	M	1		1			-		
28-1 A2	腹足綱 サザエ	M		1			15	-	蓋最大径:38.6、32.3、30.6、30.5、29.8、29.2、29.0、28.6、28.4、27.9、27.4、26.6、26.3	
28-1 A2	腹足綱 スガイ	M	3		1		2	-		
28-1 A2	腹足綱 ホソウミニナ	M	1					-		
28-1 A2	腹足綱 フトヘナタリ	M	1					-		
28-1 A2	腹足綱 Pirenella属	M	2		1			-	カワアイかヘナタリ	
28-1 A2	腹足綱 カワニナ	M	2					-		
28-1 A2	腹足綱 キクスズメ	M	1			1		-	小型	
28-1 A2	腹足綱 レイシガイ/イボニシ	M	1					-		
28-1 A2	腹足綱 ツメタガイ	M	2					-		
28-1 A2	腹足綱 バイ	M			1			-		
28-1 A2	腹足綱 テングニシ	M			1	1		-		
28-1 A2	腹足綱 不明	M				7		-		
28-1 A2	腹足綱 スグヒダギセル?	M		1		1		-		
28-1 A2	二枚貝綱 フネガイ科	?				1		-	加工痕跡なし、貝輪片の可能性も	
28-1 A2	二枚貝綱 バカガイ	R		1				-		
28-1 A2	二枚貝綱 シオフキ	L		1				-		
28-1 A2	二枚貝綱 ハマガリ	L	11	116				-		
28-1 A2	二枚貝綱 ハマガリ	R	17	136				-		

(表7つづき)

ラベル内容	分類	L/R	殻体			蓋		色調	備考(計測値の単位はmm)
			完～略 完形	殻頂部 片	殻底部 片	殻体部 片	完～ 1/2		
28-1 A2	二枚貝綱	Macridiscus属	L	2				-	コタマガイかオキアサリ
28-1 A2	二枚貝綱	Macridiscus属	R	2				-	コタマガイかオキアサリ
28-1 A2	二枚貝綱	アサリ	L	6	1			-	
28-1 A2	二枚貝綱	アサリ	R	3				-	
28-1 A2	二枚貝綱	オキシジミ	合	2				-	
28-1 A2	二枚貝綱	オキシジミ	L	7	4			-	
28-1 A2	二枚貝綱	オキシジミ	R	8	7			-	
28-1 A2	二枚貝綱	不明	?			19		-	
28-1 A2 3/12	腹足綱	クボガイ	M	6				-	
28-1 A2 3/12	腹足綱	オオコシダカガンガラ	M	3				-	
28-1 A2 3/12	腹足綱	イシダタミ	M	2		1		-	
28-1 A2 3/12	腹足綱	スガイ	M	16			1	-	
28-1 A2 3/12	腹足綱	サザエ	M	3		1		-	
28-1 A2 3/12	腹足綱	ウミニナ	M	2				-	
28-1 A2 3/12	腹足綱	ホソウミニナ	M					-	
28-1 A2 3/12	腹足綱	フトヘナタリ	M	2	1			-	
28-1 A2 3/12	腹足綱	カワニナ	M	5				-	
28-1 A2 3/12	腹足綱	バイ	M	1				-	
28-1 A2 3/12	腹足綱	Reishia属	M	4				-	レイシガイカイボニシ。殻長:56.1、37.9、29.6
28-1 A2 3/12	腹足綱	ツメタガイ	M	1				-	
28-1 A2 3/12	腹足綱	テングニシ	M	1				-	
28-1 A2 3/12	腹足綱	オトヘメズズメ	M	1				-	微小
28-1 A2 3/12	腹足綱	オオヘビガイ	M			5		-	
28-1 A2 3/12	腹足綱	不明	M			3		-	
28-1 A2 3/12	腹足綱	オキシジミ	L		1			-	
28-1 A2 3/12	腹足綱	不明	?			4		-	
28-2 -	腹足綱	ヒメクボガイ	M	1				-	
28-2 -	腹足綱	サザエ	M			1		-	
28-2 -	腹足綱	ツメタガイ	M	1				-	
28-2 -	腹足綱	不明	M		1	6		-	
28-2 -	二枚貝綱	マガキ	L	3				-	
28-2 -	二枚貝綱	マガキ	R	1				-	
28-2 -	二枚貝綱	マガキ	?			5		-	
28-2 -	二枚貝綱	バカガイ科	?			3		-	
28-2 -	二枚貝綱	バカガイ	?			1		-	
28-2 -	二枚貝綱	シオフキ	R	1	1			-	殻長:44.3、殻高:38.5
28-2 -	二枚貝綱	シオフキ	?			1		-	
28-2 -	二枚貝綱	オキアサリ	?			1		-	
28-2 -	二枚貝綱	ハマグリ	L	25	97			-	
28-2 -	二枚貝綱	ハマグリ	R	33	101			-	
28-2 -	二枚貝綱	ハマグリ	?			191		-	
28-2 -	二枚貝綱	チョウセンハマグリ	L	1				-	
28-2 -	二枚貝綱	チョウセンハマグリ	R	3				-	
28-2 -	二枚貝綱	チョウセンハマグリ	?			3		-	
28-2 -	二枚貝綱	アサリ	L	5	6			-	
28-2 -	二枚貝綱	アサリ	R	4	5			-	
28-2 -	二枚貝綱	アサリ	?			13		-	
28-2 -	二枚貝綱	オキシジミ	L	9	7			-	
28-2 -	二枚貝綱	オキシジミ	R	11	25			-	
28-2 -	二枚貝綱	オキシジミ	?			51		-	一、●(灰) 1点被熱
28-3 A2	腹足綱	クボガイ類	M		1			-	
28-3 A2	腹足綱	Omphalius属	M		1			-	コシダカガンガラの仲間
28-3 A2	腹足綱	サザエ	M			5	4	-	蓋最大径:29.0
28-3 A2	腹足綱	不明	M			1		-	小型
28-3 A2	腹足綱	ナタネガイの仲間	M	1				-	ハリマナタネ?
28-3 A2	腹足綱	ベッコウの仲間	M			1		-	ウラジロベッコウ?
28-3 A2	二枚貝綱	マガキ	L		1			-	
28-3 A2	二枚貝綱	マガキ	?			1		-	
28-3 A2	二枚貝綱	シジミ類	L	2				-	
28-3 A2	二枚貝綱	シジミ類	R	1				-	
28-3 A2	二枚貝綱	シオフキ	L		1			-	
28-3 A2	二枚貝綱	シオフキ	R		1	1		-	
28-3 A2	二枚貝綱	ハマグリ	L	39	95			-	
28-3 A2	二枚貝綱	ハマグリ	R	36	92			-	
28-3 A2	二枚貝綱	ハマグリ	?			55		-	
28-3 A2	二枚貝綱	チョウセンハマグリ	R		1			-	
28-3 A2	二枚貝綱	アサリ	L	2	6			-	
28-3 A2	二枚貝綱	アサリ	R	4	3			-	
28-3 A2	二枚貝綱	アサリ	?			4		-	
28-3 A2	二枚貝綱	オキシジミ	合	1				-	
28-3 A2	二枚貝綱	オキシジミ	L	6	14			-	
28-3 A2	二枚貝綱	オキシジミ	R	9	14			-	
28-3 A2	二枚貝綱	オキシジミ	?			9		-	
28-3 -	腹足綱	不明	M			43		-	
28-3 -	二枚貝綱	バカガイ科	?			4		-	
28-3 -	二枚貝綱	アサリ	?			2		-	
28-3 -	二枚貝綱	ハマグリ	L		3			-	
28-3 -	二枚貝綱	ハマグリ	R		3			-	
28-3 -	二枚貝綱	ハマグリ	?			84		-	
28-3 -	二枚貝綱	オキシジミ	L		1			-	
28-3 -	二枚貝綱	オキシジミ	?			8		-	
28-3 -	二枚貝綱	不明	?			39		-	
28-6 -	腹足綱	テングニシ	M	1				-	殻長:104以上、殻表面の風化(生物痕跡)激しい
28-6 B	腹足綱	サザエ	M	1		1		-	
28-6 B	腹足綱	カワニナ	M	1				-	
28-6 B	二枚貝綱	ハマグリ	L		5			-	
28-6 B	二枚貝綱	ハマグリ	R		3			-	
28-6 B	二枚貝綱	ハマグリ	?			7		-	チョウセンハマグリ含む可能性あり
28-7 A3	腹足綱	スガイ	M	1				-	
28-7 A3	腹足綱	カワニナ	M	1				-	
28-7 A3	腹足綱	不明	M			1		-	
28-7 A3	二枚貝綱	ハマグリ	L		1			-	
28-7 A3	二枚貝綱	ハマグリ	R		2			-	

(表7つづき)

ラベル内容	分類	L/R	殻体				蓋		色調	備考(計測値の単位はmm)
			完~略 完形	殻頂部 片	殻底部 片	殻体部 片	完~ 1/2	1/2以 下		
28-7 A3	二枚貝綱 ハマグリ	?				3		-	1片はチョウセンハマグリの可能性あり	
28-7 A3	二枚貝綱 アサリ	?				1		-		
28-7 A3	二枚貝綱 オキシジミ	?				1		-		
28-7 A3	二枚貝綱 不明	?				1		●(灰)		
28-8 A	腹足綱 イシダタミ	M	1					-		
28-8 A	腹足綱 スガイ	M	1					-		
28-8 A	腹足綱 ウミニナ	M	1					-		
28-8 A	腹足綱 イボウミニナ	M	1					-		
28-8 A	腹足綱 テングニシ	M			1			-		
28-8 A	二枚貝綱 ハマグリ	L		6				-		
28-8 A	二枚貝綱 ハマグリ	R		4				-		
28-8 A	二枚貝綱 ハマグリ	?				6		-		
28-8 A	二枚貝綱 アサリ	L	1					-		
28-8 A IV	腹足綱 フトヘナタリ	M	1					-		
28-8 A IV	二枚貝綱 ハマグリ	L	1	4				-		
28-8 A IV	二枚貝綱 ハマグリ	R		1				-		
28-8 A IV	二枚貝綱 チョウセンハマグリ	R		1				-		
28-8 A IV	二枚貝綱 アサリ	L	1					-		
28-8 A IV	二枚貝綱 オキシジミ	R	1	1				-		
28-8 A2	二枚貝綱 ハマグリ	L		1				-		
28-8 A2	二枚貝綱 ハマグリ	?				7		-		
28-8 A2	二枚貝綱 オキシジミ	?				1		-		
28-8 No.1	腹足綱 サザエ	M	1					-	無棘タイプ. 殻長:41.7	
28-8 No.1	腹足綱 オオコシダカガンガラ	M	1					-		
28-8 No.1	腹足綱 レイシガイ	M	1					-	殻長:60.9+(殻頂部欠損)	
28-9 -	腹足綱 クボガイ	M	1					-		
28-9 -	腹足綱 コシダカガンガラ	M			1			-		
28-9 -	腹足綱 Clithon属	M	1					-	アマオブネガイ科(カノコガイやイシマキガイの可能性)	
28-9 -	腹足綱 サザエ	M					1	-	蓋最大径:12.9	
28-9 -	腹足綱 スガイ	M	1					-		
28-9 -	腹足綱 カワニナ	M	1		1			-		
28-9 -	腹足綱 フトヘナタリ	M	2					-		
28-9 -	腹足綱 Cerithidea属	M	2					-	キバウミニナ科 幼貝	
28-9 -	腹足綱 レイシガイ	M				1		●(灰)		
28-9 -	腹足綱 イボニシ	M	3					-		
28-9 -	腹足綱 不明	M				19		-		
28-9 -	腹足綱 スグヒダギセル?	M			1			-		
28-9 -	二枚貝綱 マガキ	L		1		1		-		
28-9 -	二枚貝綱 マガキ	R	1	1				-		
28-9 -	二枚貝綱 マガキ	?				4		-		
28-9 -	二枚貝綱 シジミ類	R	1					-		
28-9 -	二枚貝綱 シオフキ	合	1					-	殻長:49.9、殻高:43.8	
28-9 -	二枚貝綱 シオフキ	L	1	1				-	殻長:41.5、殻高:36.7	
28-9 -	二枚貝綱 バカガイ	L		1				-		
28-9 -	二枚貝綱 アサリ	L	2	4				-		
28-9 -	二枚貝綱 アサリ	R	3	3				-		
28-9 -	二枚貝綱 アサリ	?				1		-		
28-9 -	二枚貝綱 ハマグリ	L	25	146				-		
28-9 -	二枚貝綱 ハマグリ	L		1				●(灰)		
28-9 -	二枚貝綱 ハマグリ	R	36	140				-		
28-9 -	二枚貝綱 ハマグリ	?				26		-		
28-9 -	二枚貝綱 オキシジミ	L	7	7				-		
28-9 -	二枚貝綱 オキシジミ	R	8	13				-		
28-9 -	二枚貝綱 オキシジミ	?				7		-		
28-9 -	二枚貝綱 不明	?				119		-		
28-9 -	二枚貝綱 サルボウガイ	R	1					-	明瞭な加工痕跡はないが、貝輪制作関連遺物か?	
29-1 A3	腹足綱 クボガイ	M	2					-		
29-1 A3	腹足綱 クボガイ類	M			1			-		
29-1 A3	腹足綱 ヘナタリ?	M	1					-		
29-1 A3	腹足綱 カワニナ	M	1					-		
29-1 A3	腹足綱 不明	M				1		-	殻軸	
29-1 A3	二枚貝綱 ハマグリ	L	8	30				-		
29-1 A3	二枚貝綱 ハマグリ	R	5	40				-		
29-1 A3	二枚貝綱 ハマグリ	?				99		-		
29-1 A3	二枚貝綱 アサリ	L				3		-		
29-1 A3	二枚貝綱 アサリ	R	2	2				-		
29-1 A3	二枚貝綱 オキシジミ	L		4				-		
29-1 A3	二枚貝綱 オキシジミ	R		4				-		
29-1 A3	二枚貝綱 オキシジミ	?				3		-		
29-1 A5	腹足綱 イシダタミ	M	1					-	殻長:15.5	
29-1 A5	腹足綱 新生腹足目	M	1					-	ウミニナ類 幼貝	
29-1 A5	腹足綱 テングニシ	M	1					-	殻頂部欠. 現存長:143.7	
29-1 A5	二枚貝綱 ハマグリ	L		2				-		
29-1 A5	二枚貝綱 ハマグリ	R	1	2				-		
29-1 A5	二枚貝綱 不明	?						-		
29-1 間層2	腹足綱 ウミニナ	M	1					-	1点被熱. ハマグリやオキシジミの破片	
29-1 間層2	腹足綱 カワニナ	M	1					-		
29-1 間層2	二枚貝綱 ハマグリ	L		1				-		
29-1 間層2	二枚貝綱 ハマグリ	?				6		-		
29-2 A3	腹足綱 Cholorostoma属	M			1			-	クボガイかヘソアキクボガイ	
29-2 A3	腹足綱 イシダタミ	M				1		-		
29-2 A3	腹足綱 カワニナ	M	1			1		-		
29-2 A3	腹足綱 不明	M				3		-		
29-2 A3	腹足綱 スグヒダギセル	M	1					-	幼貝	
29-2 A3	腹足綱 ヒメベッコウ	M	2					-		
29-2 A3	二枚貝綱 マガキ	?				4		-		
29-2 A3	二枚貝綱 シジミ類	R	1					-		
29-2 A3	二枚貝綱 バカガイ	L		1				-		
29-2 A3	二枚貝綱 シオフキ	R	1	1				-	●(灰) 殻長:45.8、殻高:39.8	
29-2 A3	二枚貝綱 ハマグリ	L	29	56				-		
29-2 A3	二枚貝綱 ハマグリ	R	29	57				-	チョウセンハマグリ含む可能性	
29-2 A3	二枚貝綱 ハマグリ	?				123		-	●(灰) 2点被熱	
29-2 A3	二枚貝綱 アサリ	L	2	3				-		

(表7つづき)

ラベル内容	分類	L/R	殻体			蓋		色調	備考(計測値の単位はmm)
			完～略 完形	殻頂部 片	殻底部 片	殻体部 片	完～ 1/2		
29-2 A3	二枚貝綱 アサリ	R	4	2				-	
29-2 A3	二枚貝綱 アサリ	?				11		-	
29-2 A3	二枚貝綱 オキシジミ	L	5	5				-	
29-2 A3	二枚貝綱 オキシジミ	R	9	6				-	
29-2 A3	二枚貝綱 オキシジミ	?				16		-	
29-2 A3	二枚貝綱 不明	?				11		-	
29-3 A3	腹足綱 カワニナ	M	1					-	殻長21.4
29-3 A3	腹足綱 不明	M				4		-	
29-3 A3	腹足綱 ヒメコハクガイの仲間	M			1			-	
29-3 A3	二枚貝綱 イガイ科	R		1				-	
29-3 A3	二枚貝綱 マガキ	?				2		-	
29-3 A3	二枚貝綱 ハマグリ	L	23	52				-	
29-3 A3	二枚貝綱 ハマグリ	R	21	49				-	
29-3 A3	二枚貝綱 ハマグリ	?				74		-、●(灰)	焼貝片2点
29-3 A3	二枚貝綱 アサリ	L	1	3				-	
29-3 A3	二枚貝綱 アサリ	R	2	3				-	
29-3 A3	二枚貝綱 アサリ	?				5		-、●(灰)	焼貝片1点
29-3 A3	二枚貝綱 オキシジミ	L	11	7				-	
29-3 A3	二枚貝綱 オキシジミ	R	6	7				-	
29-3 A3	二枚貝綱 オキシジミ	?				23		-	
29-3 A3	二枚貝綱 不明	?				12		-	
29-4 A3	腹足綱 キクスズメ	M	1					-	
29-4 A3	腹足綱 クボガイ	M	5					-	
29-4 A3	腹足綱 ヘノアキクボガイ	M	5					-	
29-4 A3	腹足綱 クボガイ類	M		6		9		-	
29-4 A3	腹足綱 コシダカガンガラ	M	9		1			-	
29-4 A3	腹足綱 オオコシダカガンガラ	M	13	2	4			-	
29-4 A3	腹足綱 イシダタミ	M	5	4				-	殻長14.0～18.0
29-4 A3	腹足綱 サザエ	M		2	1	1	5	-	蓋最大径:31.5、30.2、30.0、28.8
29-4 A3	腹足綱 スガイ	M	30	2				-	
29-4 A3	腹足綱 ウミナ	M	4					-	
29-4 A3	腹足綱 ウミナ?	M	1	1	5			-	
29-4 A3	腹足綱 フトヘナタリ	M			8	2		-	イボウミナ含む?
29-4 A3	腹足綱 カワアイ	M	2		5			-	
29-4 A3	腹足綱 ヘナタリ	M	1					-	
29-4 A3	腹足綱 カワニナ	M	28		1	1		-	
29-4 A3	腹足綱 ツメタガイ	M	3					-	
29-4 A3	腹足綱 イボニシ	M	1					-	殻長23.8
29-4 A3	腹足綱 Reishia属	M	6					-	レイシガイかイボニシ
29-4 A3	腹足綱 オカミミガイ科	M	1					-	殻頂欠損、殻現存長16.8
29-4 A3	腹足綱 不明	M				10		-	
29-4 A3	腹足綱 ヒラマキミズマイの仲間	M	1					-	
29-4 A3	腹足綱 ヒダリマキゴマガイ	M	1					-	
29-4 A3	腹足綱 ヒメベッコウの仲間	M	1					-	
29-4 A3	二枚貝綱 ハマグリ属	L		1				-	
29-4 A3	二枚貝綱 ハマグリ属	R		4				-	
29-4 A3	二枚貝綱 アサリ	L		1				-	
29-4 A3	二枚貝綱 アサリ	R		1				-	
29-4 A3	二枚貝綱 オキシジミ	L		2				-	
29-4 A3	二枚貝綱 マルスダレガイ科	?				4		-	
29-4 A4	腹足綱 ウミナ科	M	1					-	
29-4 A4	腹足綱 サザエ	M				1		-	
29-4 A4	二枚貝綱 マガキ	L	1					-	殻高72.2
29-4 A4	二枚貝綱 ハマグリ	R	3					-	
29-4 A4	二枚貝綱 チョウセンハマグリ	L				1		-	
29-4 A4	二枚貝綱 チョウセンハマグリ	R				1		-	
29-4 A4	二枚貝綱 アサリ	R	1					-	
29-4 A4	二枚貝綱 オキシジミ	L	1					-	
29-4 A4	二枚貝綱 オキシジミ	R	1	1				-	
29-5 A3	腹足綱 ホソウミナ?	M	1					-▲	
29-5 A3	腹足綱 カワニナ	M	2					-	
29-5 A3	腹足綱 スガイ	M	2					-	
29-5 A3	腹足綱 ツメタガイ	M	1					-	
29-5 A3	腹足綱 ヒダリマキゴマガイ	M	1					-	
29-5 A3	腹足綱 ヒメベッコウの仲間	M	3					-	
29-5 A3	二枚貝綱 マガキ	L	1					-	殻長74±、殻高77以上
29-5 A3	二枚貝綱 ハカガイ	R		1				-	
29-5 A3	二枚貝綱 シオフキ	L	1	2				-	殻長43.3、殻高39.4
29-5 A3	二枚貝綱 マルスダレガイ目	?				2		-	
29-5 A3	二枚貝綱 ハマグリ	L	32	49				-	
29-5 A3	二枚貝綱 ハマグリ	R	32	56				-	
29-5 A3	二枚貝綱 ハマグリ	?				47		-	
29-5 A3	二枚貝綱 アサリ	L	4	2				-	
29-5 A3	二枚貝綱 アサリ	R	3	6				-	
29-5 A3	二枚貝綱 アサリ	?				1		-	
29-5 A3	二枚貝綱 オキシジミ	L	2	5				-	
29-5 A3	二枚貝綱 オキシジミ	R	8	2				-	
29-5 A3	二枚貝綱 オキシジミ	?				12		-	
29-6 -	腹足綱 スガイ	M					2	-	
29-6 -	腹足綱 スグヒダキセル?	M		1				-	
29-6 -	腹足綱 ヒメコハクガイの仲間	M	1					-	
29-6 -	二枚貝綱 ハマグリ	L		2				-	
29-6 -	二枚貝綱 ハマグリ	R		3				-	
29-6 B II IV溝中貝層	腹足綱 クボガイ	M	2					-	
29-6 B II IV溝中貝層	腹足綱 ヒメクボガイ	M	1					-	
29-6 B II IV溝中貝層	腹足綱 クボガイ類	M	1					-	
29-6 B II IV溝中貝層	腹足綱 オオコシダカガンガラ	M	4					-	
29-6 B II IV溝中貝層	腹足綱 イシダタミ	M	4					-	
29-6 B II IV溝中貝層	腹足綱 スガイ	M	10	1			5	-	
29-6 B II IV溝中貝層	腹足綱 サザエ	M		1		2	14	-	蓋最大径:34.5、33.7、33.7、30.8、30.4、30.3、30.1、28.7、28.1、27.9、27.8、27.8、26.1、23.3
29-6 B II IV溝中貝層	腹足綱 Cerithidea属?	M	1		2			-	キバウミナ科
29-6 B II IV溝中貝層	腹足綱 カワニナ	M	6		1			-	

(表7つづき)

ラベル内容	分類	L/R	殻体				蓋		色調	備考(計測値の単位はmm)
			完～路 完形	殻頂部 片	殻底部 片	殻体部 片	完～ 1/2	1/2以 下		
29-6 B II IV溝中貝層	腹足綱	アマガイ	M	1					-	
29-6 B II IV溝中貝層	腹足綱	ツメタガイ	M	1	1				-	
29-6 B II IV溝中貝層	腹足綱	バイ	M	2					-	2点とも殻長60mm以上
29-6 B II IV溝中貝層	腹足綱	不明	M				35		-	
29-6 B II IV溝中貝層	二枚貝綱	イタヤガイ科	L				1		-	ハナイタヤ?
29-6 B II IV溝中貝層	二枚貝綱	イタヤガイ科	R				1		-	ハナイタヤ?
29-6 B II IV溝中貝層	二枚貝綱	シジミ類Corbicula属	L	1					-	殻長24.5、殻高21.5
29-6 B II IV溝中貝層	二枚貝綱	シジミ類Corbicula属	R	1					-	殻長20±、殻高18.6
29-6 B II IV溝中貝層	二枚貝綱	Gomphina属(オキアサリ?)	L	2					-	殻長49.8、殻高48.5/殻長39.3、殻高37.7
29-6 B II IV溝中貝層	二枚貝綱	ハマグリ	L	5	170				-	
29-6 B II IV溝中貝層	二枚貝綱	ハマグリ	R	4	201				-	
29-6 B II IV溝中貝層	二枚貝綱	ハマグリ	?				75		-	
29-6 B II IV溝中貝層	二枚貝綱	アサリ	L	3	5				-	
29-6 B II IV溝中貝層	二枚貝綱	アサリ	R	3	5				-	
29-6 B II IV溝中貝層	二枚貝綱	アサリ	?				8		-	
29-6 B II IV溝中貝層	二枚貝綱	オキシジミ	L	1	15				-	
29-6 B II IV溝中貝層	二枚貝綱	オキシジミ	R	2	12				-	
29-6 B II IV溝中貝層	二枚貝綱	オキシジミ	?				7		-	
29-6 B II IV溝中貝層	二枚貝綱	マルスダレガイ目?	R	1					-	
29-6 B II IV溝中貝層	二枚貝綱	不明	?				細片多 数		-	
29-7 A3	腹足綱	クボガイ	M	2					-	
29-7 A3	腹足綱	クボガイ類	M	1	2				-	
29-7 A3	腹足綱	コシダカガンガラ	M	1	1				-	
29-7 A3	腹足綱	オオコシダカガンガラ	M	3		2			-	
29-7 A3	腹足綱	ウミナ	M	2					-	
29-7 A3	腹足綱	カワアイ	M	1		1			-	
29-7 A3	腹足綱	フヘナタリ	M		5				-	
29-7 A3	腹足綱	サザエ	M				1	3	-	蓋最大径32.9、19.3
29-7 A3	腹足綱	スガイ	M	6			3		-	
29-7 A3	腹足綱	Reishia属	M	2					-	レイシガイカイボニシ
29-7 A3	腹足綱	カワニナ	M	9		2			-	
29-7 A3	腹足綱	キクスズメ	M	1					-	微小
29-7 A3	二枚貝綱	シオフキ	L		1				-	
29-7 A3	二枚貝綱	シオフキ	R		4				-	
29-7 A3	二枚貝綱	バカガイ科	L		1				-	
29-7 A3	二枚貝綱	ハマグリ	合	5					-	
29-7 A3	二枚貝綱	ハマグリ	L	9	43				-	
29-7 A3	二枚貝綱	ハマグリ	R	9	31				-	
29-7 A3	二枚貝綱	ハマグリ	?				26		-	
29-7 A3	二枚貝綱	アサリ	L	1					-	
29-7 A3	二枚貝綱	アサリ	R	1					-	
29-7 A3	二枚貝綱	アサリ	?				3		-	
29-7 A3	二枚貝綱	オキシジミ	L	1	11				-	
29-7 A3	二枚貝綱	オキシジミ	R	10	15				-	
29-7 A3	二枚貝綱	オキシジミ	?				12		-	
29-7 A3	二枚貝綱	不明	?				3		-	
29-7 A5	腹足綱	スグヒダギセル	M		1				-	
29-7 A5/B III	二枚貝綱	アサリ	?				4		-	
29-7 A5/B III	二枚貝綱	オキシジミ	?				52		-	
29-8 A3	二枚貝綱	ハマグリ	L		1				-	
29-8 A3	二枚貝綱	オキシジミ	?				7		-	
29-8 A3	腹足綱	マツバガイ	M	1					-	最大径45.0
29-8 A3	腹足綱	サザエ	M				1		-	蓋最大径31.9
29-8 A3	腹足綱	不明	M				6		-	
29-8 A3	二枚貝綱	マガキ	R				1		-	
29-8 A3	二枚貝綱	シジミ類	L		1				-	
29-8 A3	二枚貝綱	シオフキ	R		1				-	
29-8 A3	二枚貝綱	ハマグリ	L	23	60				-	
29-8 A3	二枚貝綱	ハマグリ	R	10	68				-	
29-8 A3	二枚貝綱	ハマグリ	?				46		-	
29-8 A3	二枚貝綱	アサリ	L	2	4				-	
29-8 A3	二枚貝綱	アサリ	R	7	4				-	
29-8 A3	二枚貝綱	アサリ	?				2		-	
29-8 A3	二枚貝綱	オキアサリ	L	2					-	殻長34.6、殻高26.5/殻長42.1、殻高32.8
29-8 A3	二枚貝綱	オキアサリ	R	2	1				-	殻長-、殻高34.3/殻長39.9、殻高29.6
29-8 A3	二枚貝綱	オキシジミ	L	3	5				-	
29-8 A3	二枚貝綱	オキシジミ	R	3	12				-	
29-8 A3	二枚貝綱	オキシジミ	?				10		-	
29-9 間層1 A区	腹足綱	スガイ	M	1					-	
29-9 間層1 A区	腹足綱	オカミガイ	M	1					-	殻長37.7
29-9 間層1 A区	二枚貝綱	ハマグリ	L		9				-	
29-9 間層1 A区	二枚貝綱	ハマグリ	R		5				-	
29-9 間層1 A区	二枚貝綱	ハマグリ	?				5		-	
29-9 間層1 A区	二枚貝綱	アサリ	L	1					-	
29-9 間層1 A区	二枚貝綱	アサリ	R	1					-	
29-9 間層1 A区	二枚貝綱	アサリ	?				1		-	
29-11 A区 III	二枚貝綱	ハマグリ	L		4				-	
29-11 A区 III	二枚貝綱	ハマグリ	R		4				-	
29-11 A区 III	二枚貝綱	ハマグリ	?				3		-	
29-11 A区 III	二枚貝綱	アサリ	L	1					-	
29-11 A区 III	二枚貝綱	オキシジミ	R	1					-	
64-6 B II溝中	二枚貝綱	カガミガイ類	R				1		-	マルヒナガイ?
64-6 B II溝中	二枚貝綱	ハマグリ	L		6				-	
64-6 B II溝中	二枚貝綱	ハマグリ	R		6				-	
64-6 B II溝中	二枚貝綱	ハマグリ	?				2		-	
64-6 B II溝中	二枚貝綱	アサリ	L		1				-	
64-6 B II溝中	二枚貝綱	オキシジミ?	R		1				-	
71-5 A5貝層	腹足綱	ヘソアキクボガイ	M	1					-	
71-5 A5貝層	腹足綱	ヒメクボガイ	M	1					-	
71-5 A5貝層	腹足綱	イシダタミ	M	2					-	
71-5 A5貝層	腹足綱	カワニナ	M	1					-	
71-5 A5貝層	腹足綱	サザエ	M		3		13		-	

(表7つづき)

ラベル内容	分類	L/R	殻体				蓋		色調	備考(計測値の単位はmm)
			完～略 完形	殻頂部 片	殻底部 片	殻体部 片	完～ 1/2	1/2以 下		
71-5	A5貝層	腹足綱	スガイ	M	1				-	
71-5	A5貝層	腹足綱	Reishia属	M	1				-	殻長:59.7 レイシガイカイボニシ
71-5	A5貝層	腹足綱	ハイ	M	2				-	殻長:72.9、70.2
71-5	A5貝層	腹足綱	ツメタガイ	M	3				-	
71-5	A5貝層	腹足綱	テングニシ?	M			1		-	加工(切り取り)された可能性あり
71-5	A5貝層	腹足綱	不明	M	1		5		-	
71-5	A5貝層	二枚貝綱	マガキ	L		3			-	
71-5	A5貝層	二枚貝綱	マガキ	?			6		-	
71-5	A5貝層	二枚貝綱	ハマグリ	?			3		-	
71-5	A5貝層	二枚貝綱	マルスダレガイ目	?		1	3		-	
90-2	①	二枚貝綱	ハマグリ	R	1				-	中央部に背側面から穿孔
90-2	②	二枚貝綱	フネガイ科	R			1		-	明瞭な加工痕跡はないが、貝輪制作関連遺物か?
90-2	A2	腹足綱	サザエ	M			1	2	-	蓋最大径:29.5、25.9
90-2	A2	腹足綱	スガイ	M	1				-	
90-2	A2	腹足綱	カワニナ	M	2	1			-	
90-2	A2	腹足綱	ウミナ	M	1				-	
90-2	A2	腹足綱	フヘナタリ	M	1				-	
90-2	A2	腹足綱	レイシガイ	M		1			-	
90-2	A2	腹足綱	キクスズメ?	M		1			-	
90-2	A2	腹足綱	ヒダリマキゴマガイ	M	1				-	
90-2	A2	腹足綱	スグヒダギセル?	M		2			-	
90-2	A2	腹足綱	ベッコウの仲間	M	1				-	ヒラベッコウ?
90-2	A2	二枚貝綱	マガキ	R		2			-	
90-2	A2	二枚貝綱	マガキ	?			5		-	
90-2	A2	二枚貝綱	フタバシラガイ科	R		1			-	
90-2	A2	二枚貝綱	バカガイ	R		2			-	
90-2	A2	二枚貝綱	シオフキ	L		1			-	
90-2	A2	二枚貝綱	シオフキ	R		1			-	
90-2	A2	二枚貝綱	イチョウシラトリ	R	1				-	殻長:40.6、殻高:31.5
90-2	A2	二枚貝綱	シジミ類	L	1				-	殻長:25.7、殻高:23.2
90-2	A2	二枚貝綱	シジミ類	R	1				-	殻長:21.7、殻高:20.2
90-2	A2	二枚貝綱	コタマガイ	R	1				-	殻長:48.0、殻高:37.1
90-2	A2	二枚貝綱	ハマグリ	L	35	137			-	
90-2	A2	二枚貝綱	ハマグリ	R	40	144			-	
90-2	A2	二枚貝綱	ハマグリ	?			141		-	
90-2	A2	二枚貝綱	ハマグリ?	L		1			-	
90-2	A2	二枚貝綱	チョウセンハマグリ?	R		2			-	
90-2	A2	二枚貝綱	アサリ	L	3	4			-	
90-2	A2	二枚貝綱	アサリ	R	1				-	
90-2	A2	二枚貝綱	アサリ	?			3		-	
90-2	A2	二枚貝綱	オキシジミ	L	5	12			-	
90-2	A2	二枚貝綱	オキシジミ	R	12	10			-	
90-2	A2	二枚貝綱	オキシジミ	?			17		-	
90-2	A2	二枚貝綱	不明	?			24		-	
93-55	-	腹足綱	クボガイ類	M		1			-	
93-55	-	腹足綱	コンダカガンガラ	M			1		-	
93-55	-	腹足綱	イボウミニナ	M	1				-	
93-55	-	腹足綱	カワニナ	M	1				-	
93-55	-	腹足綱	イボニシ	M	1				-	
93-55	-	腹足綱	不明	M			2		-	
93-55	-	二枚貝綱	シジミ類Corbicula属	L	1				-	マシジミか?
93-55	-	二枚貝綱	アサリ	?			2		-	
93-55	-	二枚貝綱	ハマグリ	L	7	18			-	
93-55	-	二枚貝綱	ハマグリ	R	5	15			-	
93-55	-	二枚貝綱	ハマグリ	?			16		-	
93-55	-	二枚貝綱	チョウセンハマグリ	?			1		-	
93-55	-	二枚貝綱	オキシジミ	R	1	2			-	
93-55	-	二枚貝綱	不明	?			1		-	

色調[-:変化なし、○:白～灰白色、●:黒色～灰色、▲:一部黒色、◎:褐色・暗色]
ハマグリとした破片の中にはチョウセンハマグリが含まれている可能性あり

表8 同定結果一覧 (貝類以外)

ラベル内容	分類	部位	L/R	部分	破損痕跡	色調	数量	備考		
04-1 Si A2	脊索動物門	哺乳綱	クジラ類	不明	-	不明	cm(D1a)	-	1	注記のある面に短い傷2条
04-1 Si A3	脊索動物門	哺乳綱	イノシシ	肩甲骨	L	遠位部～遠位端	cm(D1a)	-	1	若獣、鳥口突起UF、頸部前縁に傷3条
04-1 Si A4	脊索動物門	哺乳綱	イノシシ	距骨	L	完全	cm(D1a)	●	1	距骨滑車外側面、内側面～底面に傷多数、靭帯を切る際についた傷か
04-1 Si A5	脊索動物門	哺乳綱	ニホンジカ	角	?	角幹部破片	加工痕(D1a、C2b)	-	1	一方の破断面に加工痕(切断)、加工素材または産材
04-1 Si A5	脊索動物門	哺乳綱	イノシシ	上顎骨	L	歯槽骨、P4～M3		▲(灰)	1	3.5歳以上の成獣、M3の第3咬頭に咬耗が及ぶ
04-1 注記なし	脊索動物門	網不明	(鳥綱?)	不明	?	不明破片		-	1	水鳥の脛足根骨近位部に似る
04-1 注記なし	脊索動物門	硬骨魚綱	クロダイ属	第2腎臓棘	M	近位端～中央部		●	1	推定SL30cm台前半
04-1 注記なし	脊索動物門	硬骨魚綱	タイ科	第2腹椎	M	椎体		●	1	大型個体(推定SL50cm以上)
04-1 注記なし	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	尾椎	M	椎体		-	1	
04-1 注記なし	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	鱗棘	-	破片		◎、-	3	1点は焼骨の可能性
04-1 注記なし	脊索動物門	哺乳綱	テン	下顎骨	R	骨体(P1～M2歯槽)		-	1	P2・P4・M1植立
04-1 注記なし	脊索動物門	哺乳綱	イノシシ	上顎P4	R	完全		-	1	遊離歯
04-1 注記なし	脊索動物門	哺乳綱	イノシシ	尺骨	L	骨幹中央部		-	1	
04-1 注記なし	脊索動物門	哺乳綱	不明(中～大型獣)	不明	-	骨幹部破片		●	2	
04-1 注記なし	脊索動物門	哺乳綱	不明(中～大型獣)	不明	-	骨幹部破片		-	4	
04-1 注記なし	脊索動物門	哺乳綱	ニホンジカ?	下顎骨?	R?	骨体下縁?	中型tm?	-	1	
04-1 注記なし	脊索動物門	哺乳綱	ニホンジカ	上腕骨	L	近位部	cm(D1a)	●	1	若獣、骨頭UF、後面(上腕骨頸)に横方向の傷が少なくとも5条
04-1 注記なし	脊索動物門	哺乳綱	ニホンジカ	中手骨	?	遠位部前面		●	1	小片
04-1 注記なし	脊索動物門	哺乳綱	不明(大型)	不明	-	骨幹部破片		-	1	
04-1 Si 旧溝 貝	脊索動物門	哺乳綱	イノシシ	肩甲骨	R	遠位部	cm(D1a)	●	1	幼獣、内側面の後縁に傷3条、他にも細かい傷があちこちに残る
04-1 Si BⅢ 西辻中堀	脊索動物門	哺乳綱	イノシシ	上腕骨	L	遠位部		-	1	
04-1 Si BⅢ 西辻 旧溝 貝	脊索動物門	哺乳綱	ニホンジカ	胸椎	M	棘突起	cm(D1a)	▲(灰)	1	棘突起の左側面に斜方向の傷2条
13-7 A2	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	歯	?	歯冠		-	1	円錐形
13-7 A2	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	鱗棘	-	破片		-	4	近位部2点、中央部2点
13-7 A2	脊索動物門	哺乳綱	不明(大型)	不明	-	骨体破片		-	1	
27-9 -	棘皮動物門	ウニ綱	ウニ類	棘	-	破片		?	3	
27-9 -	脊索動物門	硬骨魚綱	ニシン科?	尾椎	M	椎体		-	1	小型、イワシ類か
27-9 -	脊索動物門	網不明	-	不明	-	破片		-	13	魚骨片か
28 No.1	棘皮動物門	ウニ綱	ウニ類	棘	-	破片		?	5	
28 No.1	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	不明	-	破片		-	4	
28 No.1	脊索動物門	哺乳綱	不明(中～大型)	不明	-	骨体破片	cm?	焼●	1	
28-1 A2	棘皮動物門	ウニ綱	ウニ類	棘	-	破片		?	13	
28-1 A2 3/12	棘皮動物門	ウニ綱	ウニ類	棘	-	破片		?	6	
28-1 A2 3/12	-	-	琥珀?						1	
28-1 A2	脊索動物門	硬骨魚綱	アジ科	腹椎	M	椎体		焼◎	1	マアジに近似、TL140mmのマアジ標本より若干大
28-1 A2 3/12	脊索動物門	硬骨魚綱	スズキ属	腹椎	M	椎体片		-	1	小型
28-1 A2	脊索動物門	硬骨魚綱	ベラ科	歯骨	L	略完		-	1	小型、TL142mmのキュウセン標本よりやや小
28-1 A2	脊索動物門	硬骨魚綱	カワハギ科	背鰭棘	M	関節部～中央		-	1	小型
28-1 A2	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	椎骨	M	椎体破片		◎	11	小型魚
28-1 A2	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	不明	-	破片		-◎	多	
28-1 A2 3/12	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	椎骨	M	椎体		-	2	小型魚
28-1 A2 3/12	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	尾部棒状骨	M	完全形		-	1	小型魚
28-1 A2 3/12	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	不明	?	破片		-	6	
28-1 A2	脊索動物門	哺乳綱	不明(中～大型)	不明	-	破片		▲	1	
28-2 -	棘皮動物門	ウニ綱	ウニ類	殻	-	破片		?	2	灰色
28-2 -	棘皮動物門	ウニ綱	ウニ類	棘	-	破片		?	1	灰色
28-3 A2	棘皮動物門	ウニ綱	ウニ類	殻体、棘	-	破片		?	4	殻体片1、棘片3
28-3 A2	脊索動物門	硬骨魚綱	サバ類	腹椎	M	椎体		-	1	SL250mmマサバ標本より小
28-3 A2	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	不明	-	骨幹部破片		-	2	
28-6 B	脊索動物門	哺乳綱	不明(大型)	不明	-	骨幹部破片		-	2	1片は下顎骨片
28-6 B	-	-	桂化木	-	-	-		-	1	
28-7 A3	棘皮動物門	ウニ綱	ウニ類	棘	-	破片		?	2	
28-7 A3	節足動物門	軟甲綱	カニ類	指節	?	破片		-	1	
28-7 A3	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	尾椎	M	椎体		-	1	小型魚
28-8 No.1	棘皮動物門	ウニ綱	ウニ類	棘	-	破片		?	1	
28-9 -	棘皮動物門	ウニ綱	ウニ類	殻体、棘	-	破片		-	9	殻片7、棘片2
28-9 -	節足動物門	顎脚綱	フジツボ類	殻体	-	破片		-	3	
28-9 -	脊索動物門	硬骨魚綱	マダイ亜科	歯骨	R	骨体破片		-	1	TL35mmのマダイ標本より大
28-9 -	脊索動物門	硬骨魚綱	タイ科	腹椎	M	椎体		-	1	小型、TL170mmマダイ標本と同サイズ
28-9 -	脊索動物門	硬骨魚綱	カワハギ科	背鰭棘	M	破片		-	1	小型
28-9 -	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	尾椎	M	椎体		-	1	小型魚
28-9 -	脊索動物門	網不明	-	不明	-	破片		-	1	小動物
29-1 A3	脊索動物門	硬骨魚綱	不明(ハゼ科?)	腹椎	M	椎体		-	1	微小
29-4 A3	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	不明	-	略完		-	1	
29-5 A3	棘皮動物門	ウニ綱	ウニ類	殻体	-	破片		-	3	
29-5 A3	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	腹椎	M	椎体		-	1	小型魚
29-5 A3	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	椎骨	M	椎体破片		?	2	
29-5 A3	脊索動物門	網不明	-	不明	-	不明破片		?	1	
29-6 -	棘皮動物門	ウニ綱	ウニ類	棘	-	破片		?	8	
29-6 -	脊索動物門	硬骨魚綱	マイワシ	腹椎	M	椎体		-	1	TL173mm標本より小
29-6 -	脊索動物門	硬骨魚綱	ベラ科	主上顎骨	L	完全		-	1	TL142mmキュウセン標本とほぼ同サイズ
29-6 -	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	腹椎	M	椎体		-	3	小型魚
29-6 -	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	椎骨	M	椎体破片		?(褐～黒)	5	
29-6 -	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	歯	?	歯冠		?	3	円錐形、完形2、破片1
29-6 -	脊索動物門	網不明	-	不明	-	破片		?(褐)	38	魚骨片など
29-7 A5/BⅢ	棘皮動物門	ウニ綱	ウニ類	棘	-	破片		?	1	
29-7 A5/BⅢ	脊索動物門	網不明	-	不明	-	骨体破片		?(褐、黒)	2	
29-7 A5/BⅢ	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	鱗棘	-	破片		-	1	
29-8 A3	棘皮動物門	ウニ綱	ウニ類	棘	-	破片		?	1	
29-8 A3	脊索動物門	網不明	-	不明	-	骨体破片		?(褐)	2	
29-8 A3	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	歯	?	歯冠		?	1	半球形
29-9	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	尾椎	M	椎体		-	1	小型魚
29-1 間層2	節足動物門	軟甲綱	カニ類	指節	?	破片		-	1	
29-1 A5	棘皮動物門	ウニ綱	ウニ類	棘	-	破片		?(灰)	1	
29-2 A3	棘皮動物門	ウニ綱	ウニ類	殻体、棘	-	破片		?(灰)	15	殻片3、棘片12
29-2 A3	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	肋骨/鱗棘	-	破片		-	3	
29-3 A3	棘皮動物門	ウニ綱	ウニ類	殻体、棘	-	破片		?	9	殻片2、棘片7
29-3 A3	節足動物門	顎脚綱	フジツボ類	殻体	-	破片		-	1	
29-3 A3	脊索動物門	網不明	不明	不明	-	骨幹部破片		○～青灰	1	
29-3 A3	脊索動物門	硬骨魚綱	不明	尾椎	M	椎体		-	1	

(表8つづき)

ラベル内容	分類	部位	L/R	部分	破損痕跡	色調	数量	備考	
29-3	A3	脊索動物門 硬骨魚綱 不明		鰓棘	-	破片	●	2	
29-3	A3	脊索動物門 硬骨魚綱 不明		不明	-	破片	-	2	
29-4	A3	棘皮動物門 ウニ綱 ウニ類		棘	-	破片	?(灰)	6	
29-4	A3	脊索動物門 綱不明 不明		不明	-	破片	-	3	
29-4	A3	脊索動物門 綱不明 不明		不明	-	骨幹部	●	1	長管骨、小型動物
29-4	A3	脊索動物門 哺乳綱 ニホンジカ		臼歯	?	歯冠片	-	2	小片
29-5	A3	棘皮動物門 ウニ綱 ウニ類		棘	-	破片	?(灰)	2	
29-5	A3	節足動物門 顎脚綱 フジツボ類		殻体	-	破片	-	1	
29-5	A3	脊索動物門 硬骨魚綱 サハ類		腰椎	M	椎体	-	1	
29-5	A3	脊索動物門 綱不明 不明		不明	-	破片	-	4	魚骨か
29-6	B II IV溝中貝層	棘皮動物門 ウニ綱 ウニ類		棘	-	破片	?(灰)	12	
29-6	B II IV溝中貝層	脊索動物門 硬骨魚綱 ウルメイワシ		腰椎	M	椎体	-	1	TL248mm標本よりわずかに小
29-6	B II IV溝中貝層	脊索動物門 硬骨魚綱 トビウオ科		尾椎	M	椎体	-	1	
29-6	B II IV溝中貝層	脊索動物門 硬骨魚綱 スズキ科		腰椎	M	椎体	-	1	小型
29-6	B II IV溝中貝層	脊索動物門 硬骨魚綱 不明		椎骨	M	椎体破片	◎	3	小型魚
29-6	B II IV溝中貝層	脊索動物門 硬骨魚綱 不明		歯	?	歯冠	◎	2	円錐形1、犬歯状1、いずれも小型
29-6	B II IV溝中貝層	脊索動物門 硬骨魚綱 不明		主髎蓋骨	R	前位部	◎	1	小型魚
29-6	B II IV溝中貝層	脊索動物門 硬骨魚綱 不明		肩甲骨	L	関節部分	◎	1	小型魚
29-6	B II IV溝中貝層	脊索動物門 硬骨魚綱 不明		鰓棘	-	破片	◎	4	
29-6	B II IV溝中貝層	脊索動物門 綱不明 不明		不明	-	破片	◎	多数	多くは魚骨
29-7	A5	棘皮動物門 ウニ綱 ウニ類		棘	-	破片	?(灰)	1	
29-7	A5	節足動物門 顎脚綱 フジツボ類		殻体	-	破片	-	1	
29-7	A5	脊索動物門 硬骨魚綱 不明		不明	M	椎体	-	1	
29-7	B III 包含踏みかため層	脊索動物門 哺乳綱 ニホンジカ		下顎骨?	R?	骨体破片	-	多数	シカのRM3が含まれていたため、その顎骨の可能性が高い
29-7	B III 包含踏みかため層	脊索動物門 哺乳綱 ニホンジカ		下顎第3大臼歯	R	歯冠	-	1	大きい(雄か)、指数3~4(8歳以上か)
29-8	A3	棘皮動物門 ウニ綱 ウニ類		棘	-	破片	?(灰)	5	
29-8	A3	節足動物門 軟甲綱 カニ類		指節	?	破片	-	1	
29-8	A3	脊索動物門 硬骨魚綱 不明		尾椎	M	椎体	-	1	
29-8	A3	脊索動物門 硬骨魚綱 不明		鰓棘	-	破片	-	1	
29-8	A3	脊索動物門 哺乳綱 不明(中~大型獣)		不明	-	破片	-	1	
71-5	A5貝層	棘皮動物門 ウニ綱 ウニ類		殻体	-	破片	-	1	
90-2	A2	棘皮動物門 ウニ綱 ウニ類		棘	-	破片	?	16	
90-2	A2	脊索動物門 硬骨魚綱 カワハギ科		背鰭棘	M	略完(先端欠)	-	1	小型
90-2	A2	脊索動物門 硬骨魚綱 不明		椎骨	M	椎体	-	2	小型魚
90-2	A2	脊索動物門 硬骨魚綱 不明		角骨	L	略完	-	1	小型魚
90-2	A2	脊索動物門 硬骨魚綱 不明		不明	-	破片	-	13	鰓棘、肋骨、椎骨、その他不明骨片など

破損痕跡[小型tm:小動物の食痕、中型tm:食内目などの歯痕、cm:人為的なカットマーク(カットマークの分類は富岡ほか(2002)に基づく。)]

歯の略号[P:小臼歯、M:大臼歯] 色調[-:変化なし、○:白~灰白色、●:黒色~灰色、▲:一部黒色、◎:褐色・暗色] 備考欄[UF:骨端部未化石、TL:全長、SL:標準体長]

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

研究紀要

第 13 号

発行年月日 2018年3月
編集・発行 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム
〒759-6121 山口県下関市豊北町神田上 891-8
TEL 083-788-1841
FAX 083-788-1843
印刷 藤井印刷株式会社
〒750-0009 山口県下関市上田中町 5-6-24
TEL 083-231-1612
FAX 083-222-8611
